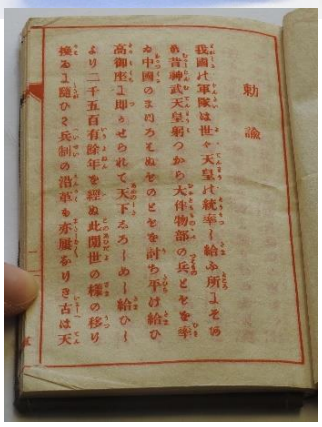
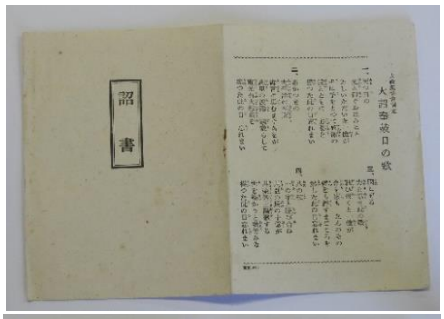
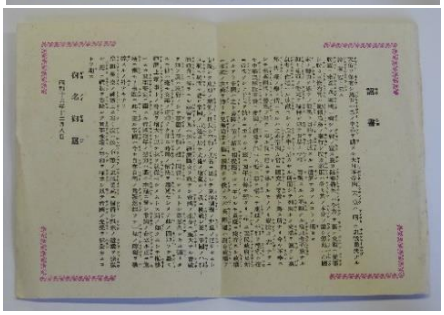
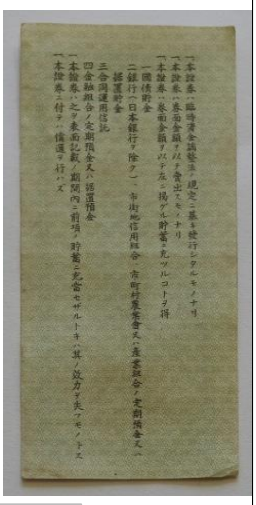
鶴岡市・戦争関連資料(寄贈品)リスト

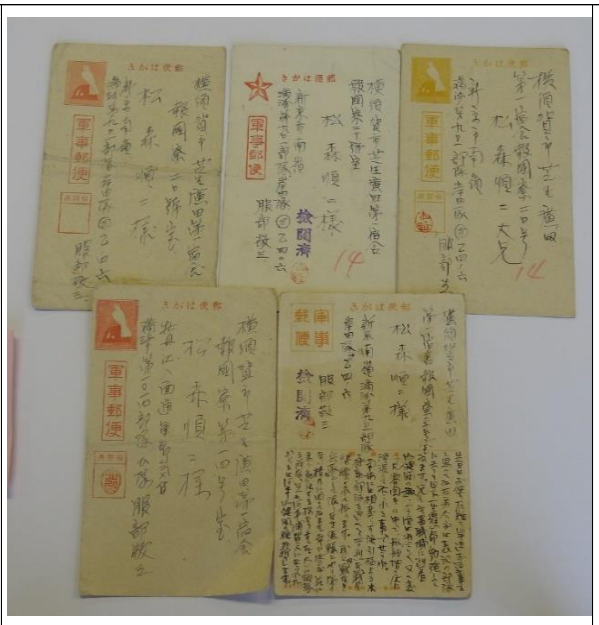
No	写真	資料名	概要(用途・解説等)
1		入場票	「非常警戒線入場票」 山形県鶴岡警察署が鶴岡電気会社に対して発行した、非常警戒線入場票です。電気会社の職員に、施設などへの入場に特別な許可を与えたものと思われます。 第72号と番号が書かれています。
2		記章	「帝国在郷軍人会　功労章」 帝国在郷軍人会（ざいごうぐんじんかい）は、陸軍省の指導のもと発足し、現役を離れた軍人によって構成される全国組織のことです。軍隊教育や救護事業などを行いました。 功労章は模範会員表彰や幹部会員表彰を授与されたのちに、さらに優良な期間を経たものに授与されました。
3		記章	「支那事変従軍記章」 昭和14年7月27日、「支那事変従軍記章令」（勅令第496号)によって制定されたものです。日中戦争に従軍した兵士や関係者に与えられました。要件を満たせば文民や民間人にも広く授与されました。 記章の裏面に「支那事変」と刻印があります。

4		野戦箸(ばし)	「野戦箸」 事変を記念し偕行社により発行されたもの。箱の裏面に、実用新案登録出願中の文字があります。中央は敵から奪い取った小銃弾を用いて作った爪楊枝(つまようじ)入れで、左右の筒は箸として使われると説明書きがあります。 偕行社の制作です。
5		徽章(きしょう)	「帝国在郷軍人会　徽章」 帝国在郷軍人会の大小の会員徽章です。 徽章には、会での立場により種類がありました。 箱の表に班長 副班長 組長 副組長とあり、中には役員徽章が収められていたと思われます。 徽章には陸軍の星、海軍の錨(いかり)がシンボルとして描かれています。
6		徽章(きしょう)	「帝国在郷軍人会　会員徽章」
7		徽章	「徽章」 左、弓のデザイン。裏面に大日本神弓会の文字があります。 中、カップのデザイン。裏面に東京日日新聞社の文字があります。 右、兜のデザイン。裏面に皇紀二千五百九十一年の文字があります。満洲事変の起こった昭和6年にあたります。

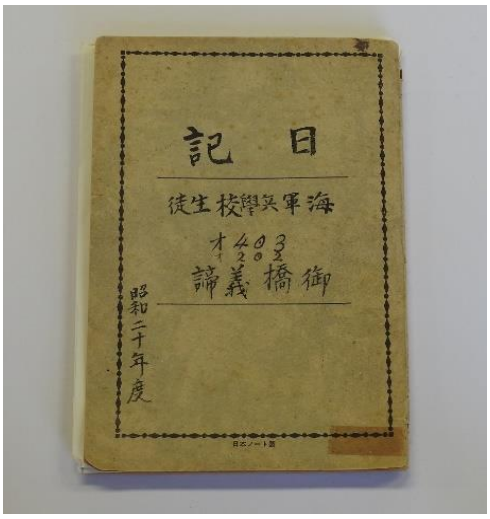
8		ベルトのバックル	「校舎の落成記念として作られたベルトのバックル」 日本大学で現在も使われる最も古い校舎の落成記念品です。裏面に「日本大学予科文科　落成記念　昭和13年1月30日」とあります。
9		バッジ	鶴がデザインされています。 裏面に、特に文字は書かれていません。
10		徽章	「帝国在郷軍人会　徽章」 徽章は、会での立場により種類がありました。 右下の黄色い徽章は、役員徽章と思われます。 どの徽章にも陸軍の星、海軍の錨がシンボルとして描かれています。

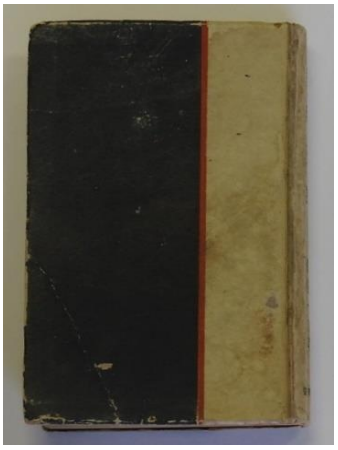
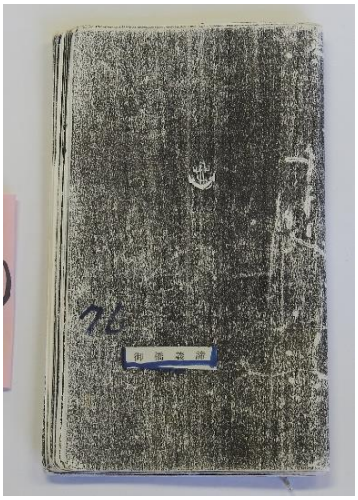
11	 	軍隊手帳	「軍隊手帳　兵士の身分証明書、経歴書となる手帳」 明治時代から使用され、兵士一人一人(下士官・兵だけで将校にはない)に配布し所持を義務付けた公式の手帳です。身分を証明するだけではなく、「軍人勅諭(ぐんじんちょくゆ)」などがつづり合わされ、兵士のモラルを保つためにも利用されました。昭和期になると「戦陣訓(せんじんくん)」が掲載されるものが出てきました。 持ち主の所属部隊・階級や住所・誕生日・身長・服や靴のサイズなどが記載されていて軍からの配給品を配るときにも役立ちました。また、出征の経歴なども記録されました。
12	 	詔書	「宣戦の詔書」 昭和16年(1941年)12月8日のアメリカ・イギリスに対しての開戦を宣したもの。(太平洋戦争の開戦) 大日本帝国は自存自衛のためやむを得ず戦うこととなったと記しています。
13		写真	兵士の集合写真のようです。服装がまちまちで、一つの部隊の集合写真ではないようです。

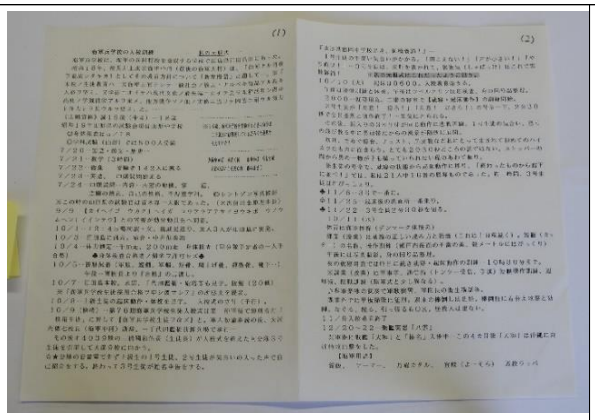
14		写真	１３と同じ、集合写真です。
15	  表　裏	貯蓄券	「大日本帝国政府　貯蓄券　五拾(十)銭」 臨時資金調達法に基づき、日本政府が、戦費調達のために発行した貯蓄券。1944年(昭和19年)に発行されたものです。 五拾銭の他、壱(一)円、五円、拾(十)円などがあり、軍需資金調達のために、大量に発行されました。裏面に貯蓄券の説明が印刷されています。
16		納税袋と硬貨	「鶴岡市納税袋と当時の硬貨」 鶴岡市の納税袋。積立貯金の端数を記録したものと思われます。 1944年(昭和19年)の日付があります。 裏面に、「銃後の護り」「我等が納税」等の言葉が書かれています。
17		新聞	「第二次世界大戦、欧州戦線を報じる新聞」 昭和15年、東京朝日新聞。 ドイツのイギリス上陸作戦などの記事が載っています。

18		軍事郵便	「戦地にいる兵士とやりとりする郵便」 宛名面に「軍事郵便」と朱書きし、枚数の制限はありましたが、兵士から出す郵便は原則無料でした。内容については検閲があり、通過済みのものには検閲済みの印が押されました。 このハガキは、当時の満州国の新京や牡丹江の部隊の服部敬三さんから横須賀市の「報国寮」にいる松森順二さんに送られています。
19		日章旗	「入営のお祝いとして贈られた日章旗」 入営(軍務に就くために兵営に入ること)のお祝いとして贈られたものです。日章旗は、出征や入営の際に、武運を祈り、お守りとして贈られました。 皇紀2599年12月1日とあります。皇紀とは、日本の紀元として、日本書紀に記す、神武天皇即位の年を元年として、1872年に定められたものです。皇紀2599年は、西暦1939年(昭和14年)です。
20		軍帽	「海軍兵学校生徒の軍帽」 正面に錨がデザインされています。海軍兵学校とは、旧日本海軍の士官を養成した学校で、1945年まで存続しました。

21		ゲートル	「陸戦用ゲートル」 戦場で足を保護するために、ズボンの上からすねの部分に巻いたもの。巻脚絆(まきぎゃはん)ともいいます。元は陸軍兵のものでしたが、第二次大戦が始まってからは、大人はもちろん中学生まで男子は日常的に巻くようになりました。
22		肩章	「海軍兵学校生の肩章」 海軍兵学校生の肩章です。肩章は、制服などの肩につけて官職・階級などを示します。この肩章には、桜と錨のマークがボタンに、布にも錨が刺繍されています。
23		かばん	「かばん」 御橋さんが、海軍兵学校で使用したものです。持つところがついています。 内側に「オ403オ202御橋義諦」の記名があります。オ202とオ403は所属した分隊名です。
24		手旗	「手旗」 御橋さんが、海軍兵学校で使った手旗です。 紅白の手旗を両手に持ち、これを振り動かして遠くの相手に通信しました。(手旗信号)艦船などで使用しました。

25		短剣	「海軍兵学校生の短剣」 海軍兵学校に合格した御橋さんは、この短剣を着用して、昭和19年10月9日の入校式に臨みました。 軍刀は士官、下士官、士官候補生、海軍兵学校生などだけが所持しました。
26		原爆被曝防護用白頭巾	「原爆被曝防護用白頭巾」 海軍兵学校大原分校で、広島へ原爆投下の翌日、江田島の海軍兵学校の生徒全員に、顔面を守るために作成させたものです。白い布で目だけが出るようになっています。常時持ち歩くように指示されたという記録もあります。 (材料)天竺木綿
27		日記	「海軍兵学校生の日記」 御橋さんが、海軍兵学校で書いた日記です。 昭和20年の初めから、終戦後の鶴岡に帰郷するまでの毎日の訓練や学習など生活の様子が記録されています。 軍艦利根が攻撃を受けて沈んだこと、メモでは広島原爆のことなども記されていて、その当時のことが生々しく伝わってきます。 授業の内容も細かく記され、海軍兵学校では英語が学習されていたこともわかります。

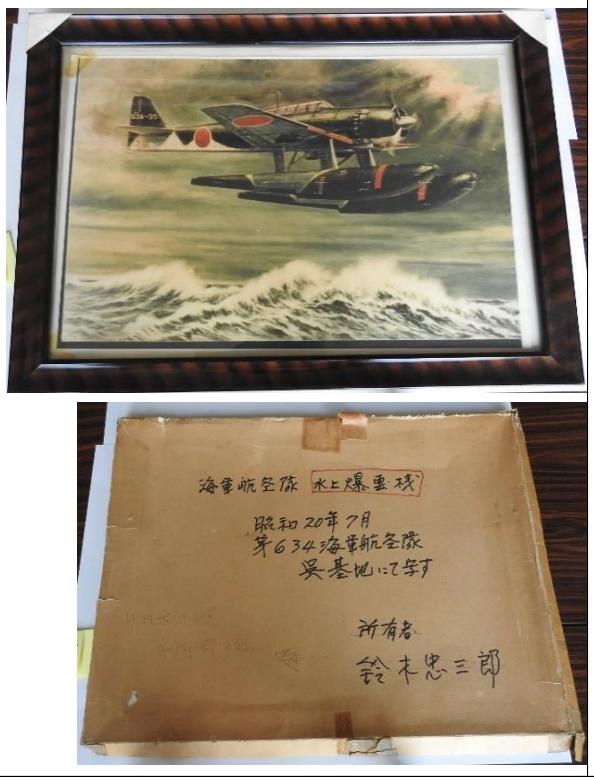
28		教科書類	「海軍兵学校で使用された教科書類」 海軍体操教範、基礎数学教科書、遊泳参考書。 敵性語を排除する風潮の中で、海軍兵学校では、戦時中も英語教育を行い、受験科目にもあったそうです。
29		日記	「御橋義諦さんの日記」 御橋さんが、昭和19年に書いた日記。 戦時下の中学生の生活や、10月の海軍兵学校入校の前後などが詳しく書かれた貴重な記録です。
30		軍歌集	「軍歌集」 軍人の士気を高めるための歌や、愛国心、軍隊生活をうたった軍歌の歌集。 軍歌は盛んに作られ、広く歌われました。 この御橋さんの歌集には、「江田島健児の歌」などが収められています。

31		覚書	「御橋義諦さんの海軍兵学校の受験から入校の前後に関する覚書」 海軍兵学校は16歳から19歳の志願者の中から試験によって選抜されました。 16歳で海軍兵学校に合格した御橋さんが、昭和19年10月3日海軍兵学校のある江田島に到着したと書かれています。 御橋さんは海軍兵学校の大原分校で学びました。
32		記章	「昭和6年乃至9年事変従軍記章」 従軍記章とは、軍人が戦争に従事したことに対し、除隊後、政府や軍隊がその功労を表彰するために授与した記章です。 これは「昭和6年乃至9年　事変従軍記章」で、昭和6年の満州事変、昭和7年の第一次上海事変に従事した軍人に与えられました。
33		記章	「支那事変従軍記章」 従軍記章は、戦争や事変ごとに作られて授与されました。 これは発行数が最多の従軍記章で、日中戦争に従事した軍人に授与されました。 表には菊紋、八咫烏(やたがらす)などがデザインされています。

34		記章	３３と同じ
35		記章	「愛国婦人会 一等有功附加章」 愛国婦人会は、1901年(明治34年)に奥村五百子(いおこ)によって、夫人の軍事援護事業を目的に創立されました。 主な活動としては戦時の遺族救済など社会活動や慈善事業などを行いました。 愛国婦人会は、1942年に、大日本婦人会に統合されました。
36		記章	「愛国婦人会　一等有功章」
37		記章	「愛国婦人会　三等有功章」

38		記章	「愛国婦人会　二等有功章」
39		記章	「愛国婦人会　三等有功章附加章」
40		勲章	「勲八等白色桐葉章」 旭日章の勲八等に授与された勲章。 国家や公共に対して優れた働きをした人に対して贈られたもので、当時軍人全般、軍務経験がある人に広く授与されました。
41		勲章	「勲七等青色桐葉章」 国家や公共に対して優れた働きをした人に対して授与されました。

42		勲章	「勲八等瑞宝章」 特に公務に長い間従事し、成績をあげてきた人に対して授与されました。
43		教授用掛図	「学校の授業で使われた掛図」 小学校(国民学校初等科)の授業で使われた指導用の掛図です。使用された正確な年代はわかりませんが、数の勉強に飛行機が使われているように、戦時色が濃厚に表れています。 左は、日の丸をもって戦争ごっこをしている男の子です。戦争ごっこは男の子に大人気の遊びでした。 太平洋戦争開戦の昭和16年、尋常小学校は「国民学校」に変わりました。学校の目的が尋常小学校の「児童身体の発達に留意して(略)教育の基礎と生活に必須なる普通の知識技能を授けるを本旨とする」が、国民学校では「皇国の道に則りて初等普通教育を施し」と変わりました。
44		教授用掛図	

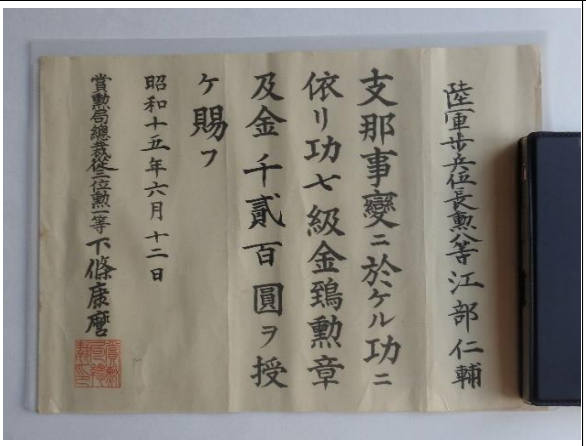
45	写真は、著作権保護(撮影:山形県立博物館)の関係で掲載していません。	額入り写真	「青い目の人形の額入り写真」 昭和2年アメリカの子どもたちから贈られた友情の人形です。全国で12000体あまり、鶴岡の小学校や幼稚園にも26体が贈られました。 戦時中、敵国の人形ということから、多くが焼かれたり捨てられたりした中、湯野浜小、旧羽黒一小(現在は羽黒小に)、旧加茂小(現在は加茂コミュニティ防災センターに)の3体の人形が、今も大切に保存されています。
46	 	額入りの絵画	「海軍航空隊の水上爆撃機の絵画」 第634海軍航空隊の「瑞雲」です。 昭和20年7月に広島県の呉基地に配備されていたものです。 尾翼に634と航空隊名が書かれています。

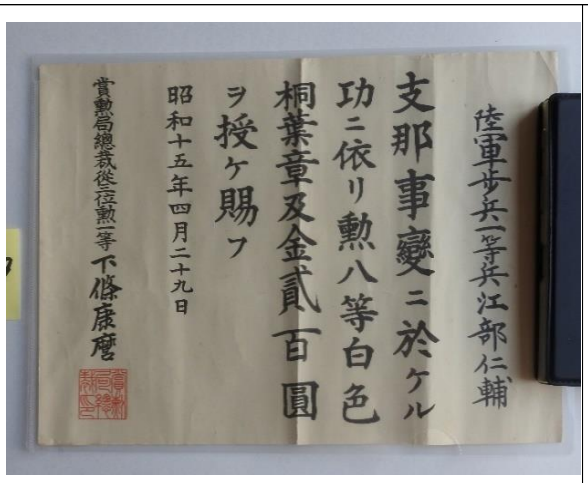
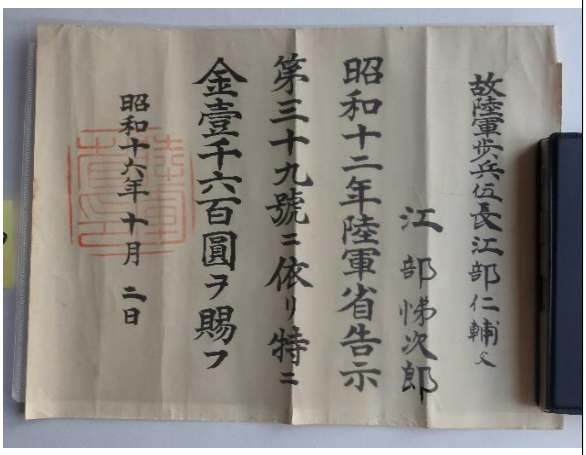
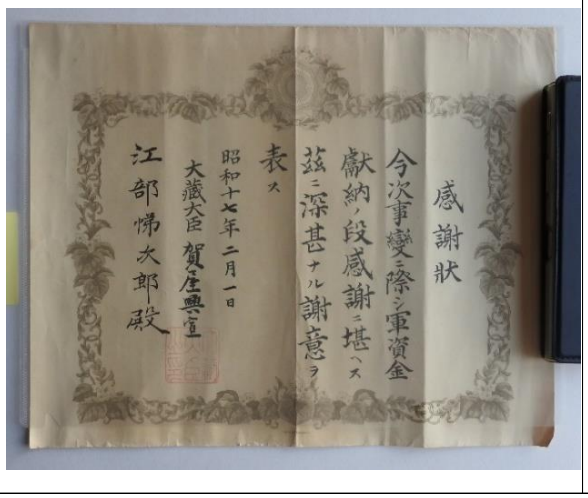
47		出征の幟(のぼり)	「軍人として召集されたことを祝い、掲げられたのぼり」 兵役につくために兵営に入ることを入営といい、戦争に行くことを出征といいます。兵士の入営や出征に際して知人や家族によって武運祈願のため作られ、神社に奉納されました。 入営や出征は「名誉」なこととされ、こうしたのぼりを立てて、軍歌や万歳で送り出しました。 こうした幟旗の製作、兵士の見送りは満州事変以降盛んにおこなわれましたが、のちに戦時体制が強化されるにつれ、動員情報の漏洩を防ぐためと称して統制がかけられたともされます。
48		出征の幟(のぼり)	４７と同じ

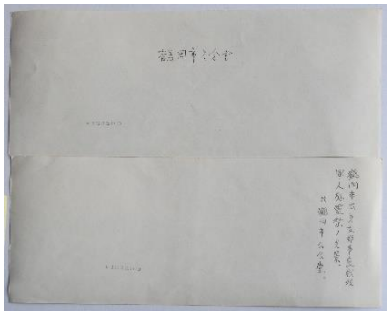
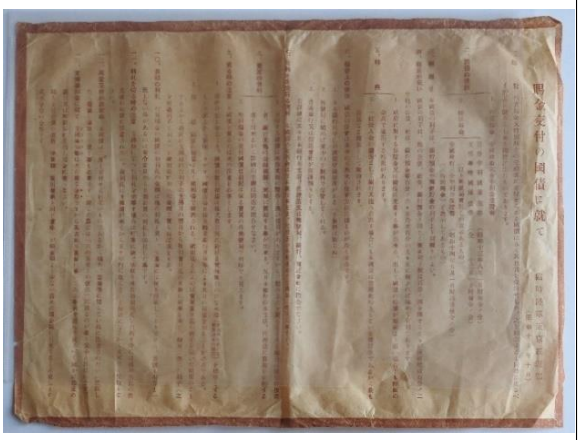
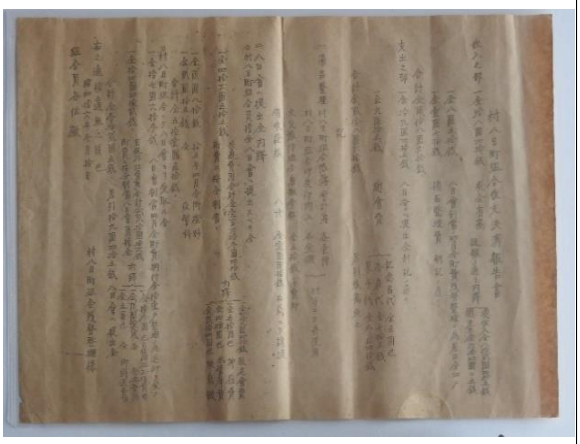
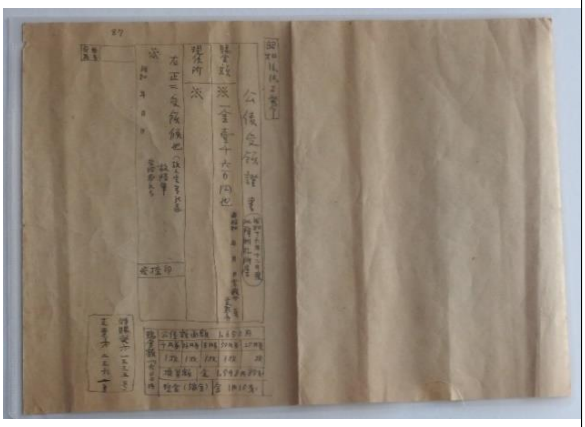
49		出征の幟(のぼり)	４７と同じ
50		出征の幟(のぼり)	４７と同じ

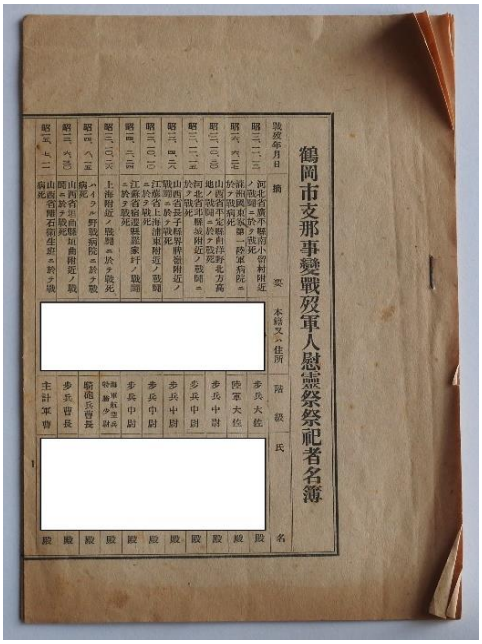
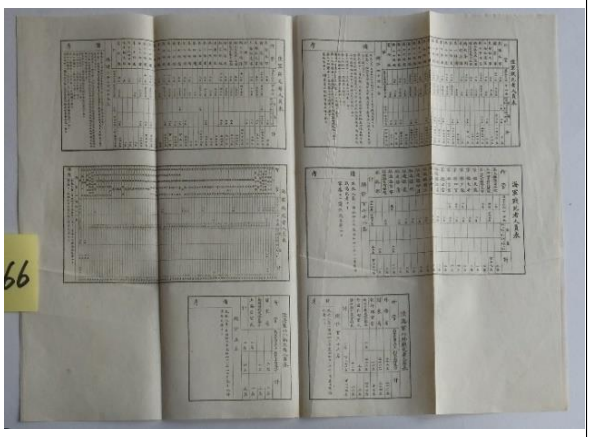
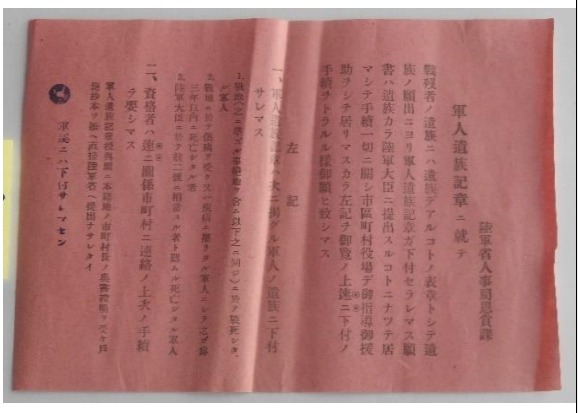
51		出征の幟(のぼり)	４７と同じ
52		出征の幟(のぼり)	４７と同じ
53		海軍大臣旗	「海軍大臣旗」 海軍大臣旗は、海軍大臣が艦船に公務を帯びて乗艦した場合に掲揚されました。海軍のシンボルである桜と錨(いかり)がデザインされています。 実際に使われたものかどうかは、わかりません。

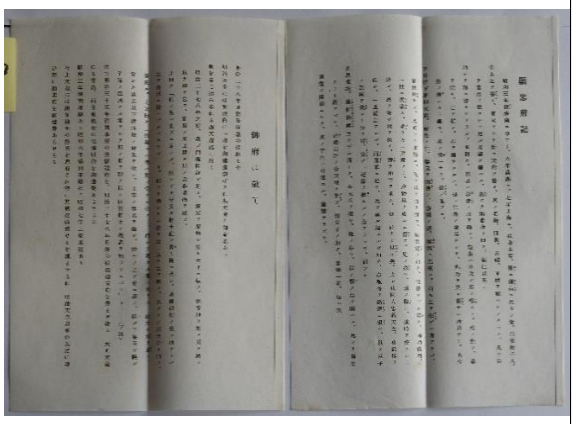
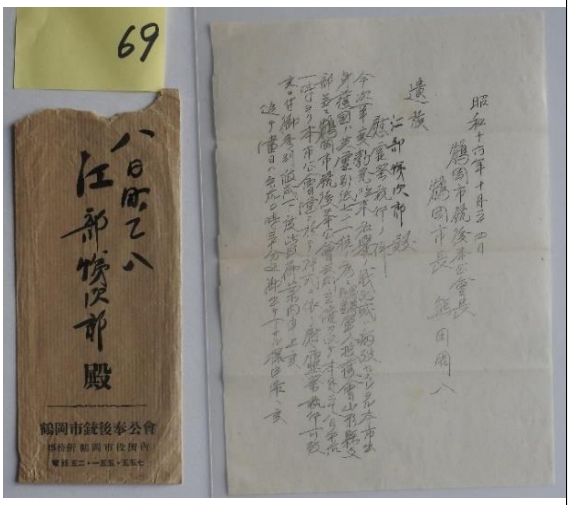
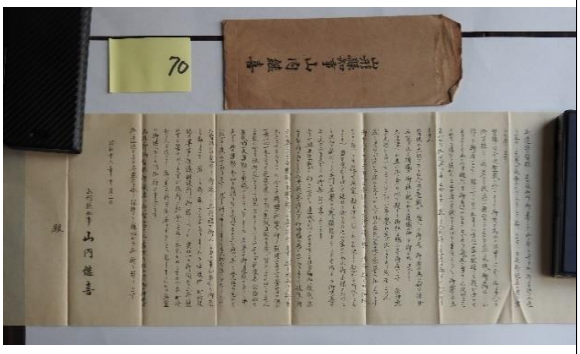
54		幟(のぼり)	「万歳と書かれた幟」 幟の幅が約40㎝と大きく、金箔を貼った文字で大変立派に作られています。 大きなお祝いの儀式で掲げられたものと思われます。
55		軍旗	「旭日旗」 陸軍の軍旗。 1870年(明治3年)に考案・採用されました。
56		日章旗	19と同じ 「入営のお祝いとして贈られた日章旗」 武運長久を祈念して贈られたものです。 内務省神社局長　中野與吉郎とあります。滋賀県出身で内務・警察官僚を務めた人と思われます。

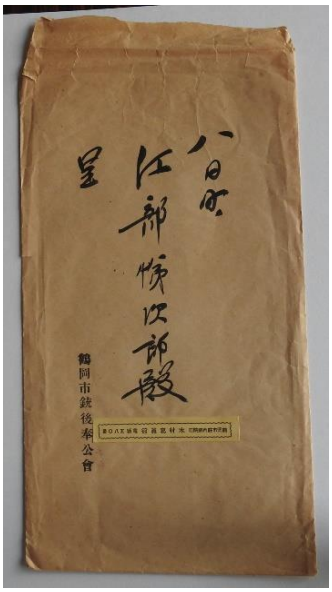
57		葬儀に掲げられた幟(のぼり)	「戦死者の葬儀に掲げられた幟」 慰霊祭は、昭和16年10月28日に開催されました。
58		金鵄勲章及び賜り金趣意書	「功七級金鵄勲章及び賜金趣意書」 支那事変(日中戦争)で武功のあった江部仁輔さんに功七級金鵄勲章と1200円が授与されました。(昭和初期の勤労者の平均年収は700円台) 江部さんの位は二等兵から伍長に昇進しています。趣意書の日付は昭和15年6月12日で、182の江部さんの位牌と同じです。 金鵄勲章受章者には終身年金が支給されていましたが、日中戦争開戦後受賞者が急増し、国庫の大きな負担となったため、1940年(昭和15)4月に一時金制になり、国債の形で支給されました。 太平洋戦争の敗戦後、昭和22年5月3日政令第4号で、この国債は価値のないものとなりました。 敗戦までの金鵄勲章授与者数は、10万人をこえるとされています。

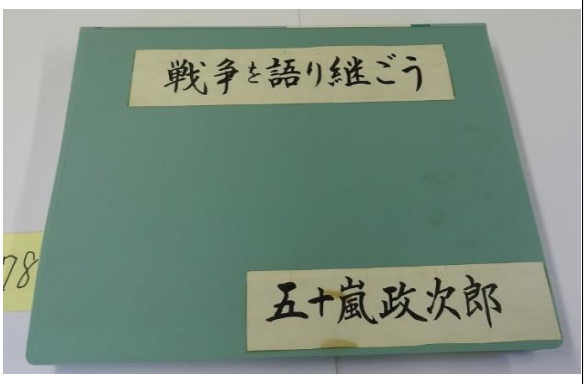
59		白色桐葉章及び賜り金趣意書	「勲八等白色桐葉章及び賜り金趣意書」 支那事変(日中戦争)で江部仁輔さんは勲八等白色桐葉章(くんはっとう　はくしょくとうようしょう)(国家や公共に対して優れた働きをした人々に対しての勲章)と金200円が授与されました。江部さんは二等兵と記されています。日付は昭和15年4月29日。戦死される前の日付です。
60		賜り金趣意書	「賜り金趣意書」 江部仁輔さんが戦死された後に、仁輔さんの父悌次郎さんへ贈られたもの。陸軍省告示第39号によるとあります。昭和16年10月2日付。 官報　昭和16年10月23日にも記載があります。
61		感謝状	「軍資金献納についての感謝状」 江部悌次郎さんに対して、大蔵大臣名で発行されています。 日付は昭和17年2月1日です。

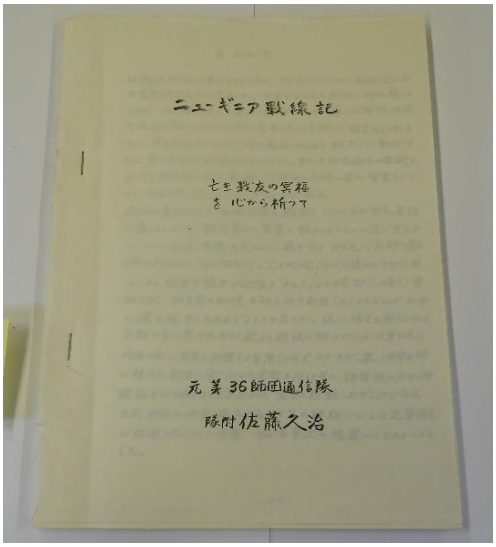
62	 	写真	「戦没軍人慰霊祭の写真」 1937年(昭和12)に始まった日中戦争で亡くなった鶴岡市出身の方の軍人慰霊祭の写真です。 裏面に「鶴岡市出身支那事変戦没軍人慰霊祭の光景　於鶴岡市公会堂」と書かれています。
63		説明用紙	「賜金交付の国債について」 臨時陸軍経理部からの文章。 銀行預金や郵便貯金より利回りがよいことや、税金が低いことなどが記され、頂いた者にとって恩賞を保持するとともに、貯蓄に有利であることを目的としていると述べています。
64	 	説明用紙・ 決算報告書	「村八日町組合収支決算報告書」 「公債受領証書」

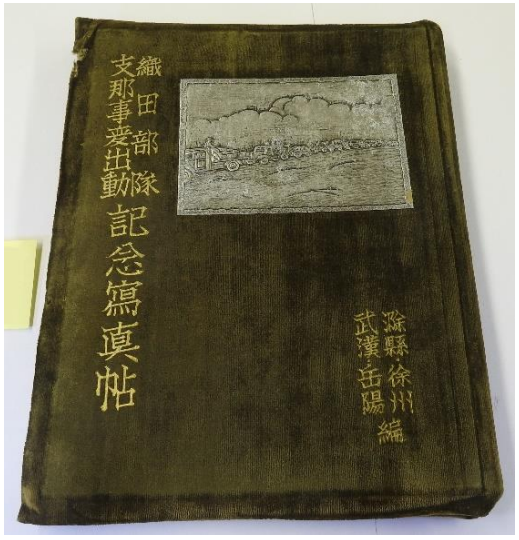
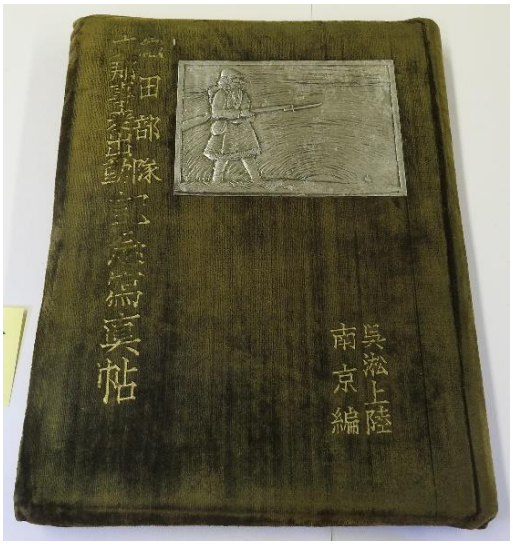
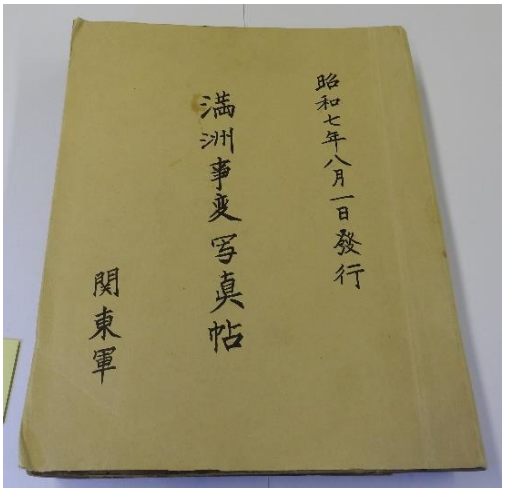
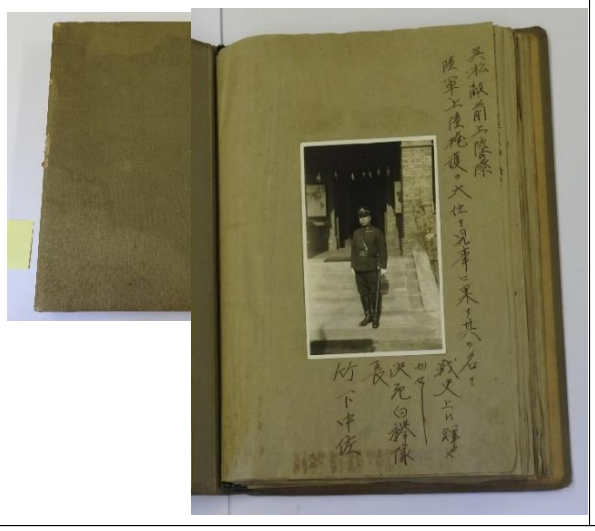
65		名簿	「鶴岡市支那事変戦没軍人慰霊祭祭祀者名簿」 1937年(昭和12)に始まった日中戦争で1941年(昭和16)10月の慰霊祭までに亡くなった鶴岡市出身の軍人71名の名簿です。一人一人の戦死の場所と日時が記載されています。 71名は、戦前の鶴岡市(鶴ケ岡城を中心にした旧市内)出身の戦死者数で、現在の鶴岡市全体の戦死者数ではありません。
66		説明用紙	「戦病死者の人数等を記載した用紙」 戦病死者の人数等を詳細に記載しています。陸軍、海軍では部隊、艦艇などの別で、さらに軍属以外の戦死者数も記されています。昭和3年から11年の人数です。
67		説明用紙	「軍人遺族記章についての説明書き」 陸軍省人事局恩賞課からの文章。 軍人遺族記章を受けるために手続きを取るようにと記しています。

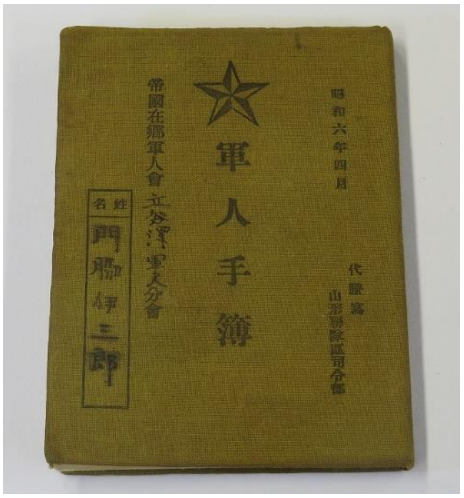
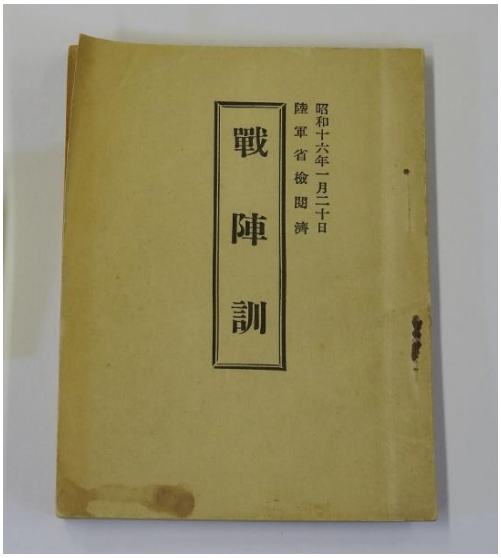
68	 	記念品及び説明用紙	「顕忠府(けんちゅうふ)についての記念品と説明」 「顕忠府」とは、皇居内に五つ造営された「御府(ぎょふ)」の一つで、1936年（昭和11年）に、戦病死者を慰霊するために、昭和天皇の発案により造営されたものです。御府は、明治以降の日本の戦役の記念館にあたるもので、五番目に作られた「顕忠府」には、昭和3年の済南事件から満州事変、日中戦争に関連する記念品や戦死者の写真などの事物が収蔵・保管されました。 説明書きにはそのいわれが紹介されています。
69		案内状	「遺族の方への鶴岡市戦没軍人慰霊祭の案内」 江部仁輔さんの遺族への、鶴岡市公会堂での市戦没軍人慰霊祭(昭和16年10月28日)の案内状です。71柱をお祀りするとあります。 案内状の日付は昭和16年10月24日で、鶴岡市銃後奉公会長である鶴岡市長より送られています。
70		手紙	「山形県知事の戦死者の遺族の方への手紙」 戦死した方を悼みながらも、聖戦のため、天皇陛下のために命を捧げたことを名誉と称揚する内容になっています。 昭和16年10月3日付。

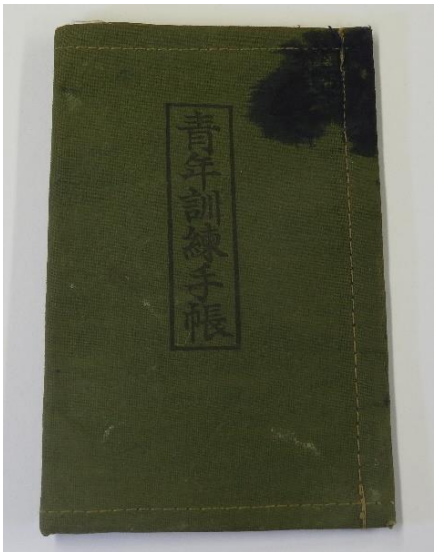
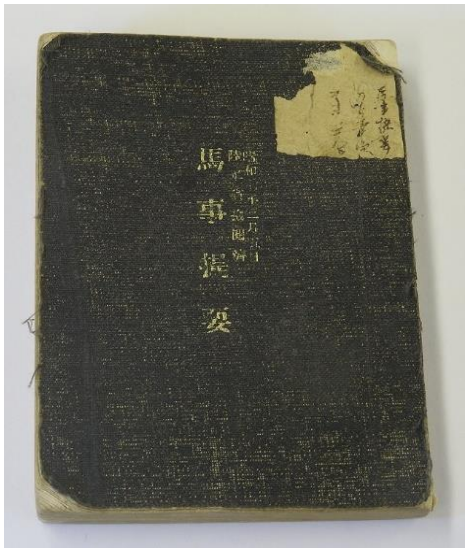
71		封筒	「鶴岡市銃後奉公会から、遺族へ写真を送った封筒」 銃後奉公会が、遺族の方へ写真をお返しするときに用いた封筒と思われます。
72		ゲートル	21と同じ 「ゲートル」 軍服ズボンに使った、巻きぎゃはん。 足に巻き付けて使用し、戦場では、応急処置の包帯代わりとして、また骨折した手足を吊るためにも使われました。
73		水筒	「陸軍の水筒」 水筒は兵士一人ひとりに支給され、行軍の際は肌身離さず携帯しました。 吉住さんは、水筒などをシベリア抑留の間も持ち続け、日本に持ち帰りました。水筒や飯盒、背嚢などは、野戦での必需品でした。
74		雑嚢(ざつのう)	「シベリアで使用した雑嚢(ざつのう)」 いろいろな物品を入れて肩から下げた布製のかばんです。皮やズックなどで丈夫に作ったもので、将兵が行軍のときなどに用います。

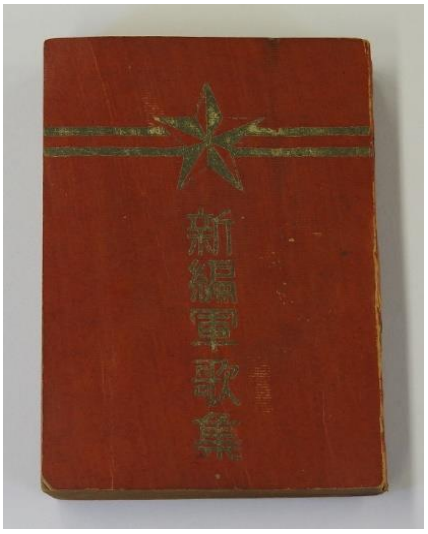
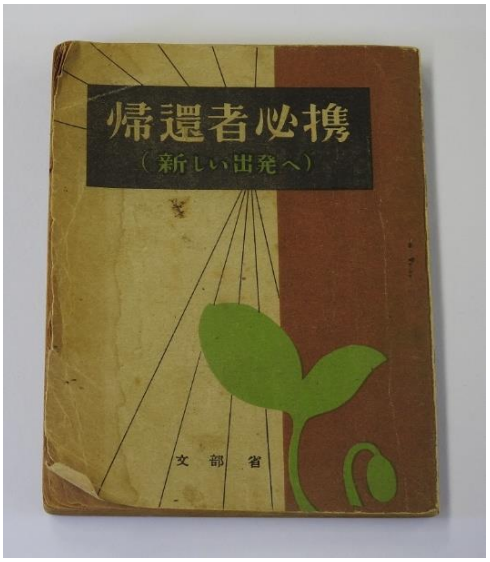
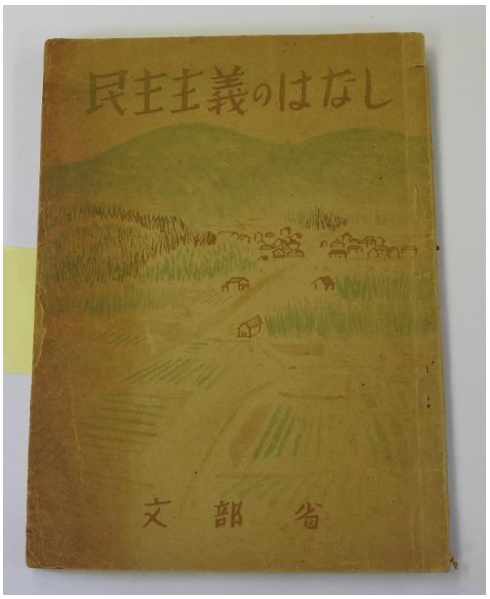
75		編上靴	「編上靴」 寒い地域で履かれたもの。裏地が起毛してあります。
76		編上靴	「編上靴」 兵隊などの履く編み上げ靴です。最も多く用いられた歩兵用の編上靴（あみあげぐつ）のことを兵隊たちは「へんじょうか」と呼びました。将校には礼装用の正靴などがありました。 靴底にロシア文字があり、ソ連から支給されたものと思われます。
77		写真アルバム	「政府派遣ウエーキ島戦没者遺骨収集団参加記念記録写真」 北太平洋の島ウエーキ島の戦没者遺骨収集団の貴重な記録写真です。 自昭和53年2月20日 至昭和53年3月8日
78		スクラップブックと雑誌	「戦争を語り継ごう」 個人の集めた戦争と平和に関するスクラップブックです。戦中・戦後の新聞の切り抜き、戦場や傷病兵の写真などが収められています。また、「雑誌　月刊中日」も合わせて保管されています。 昭和19年4月号

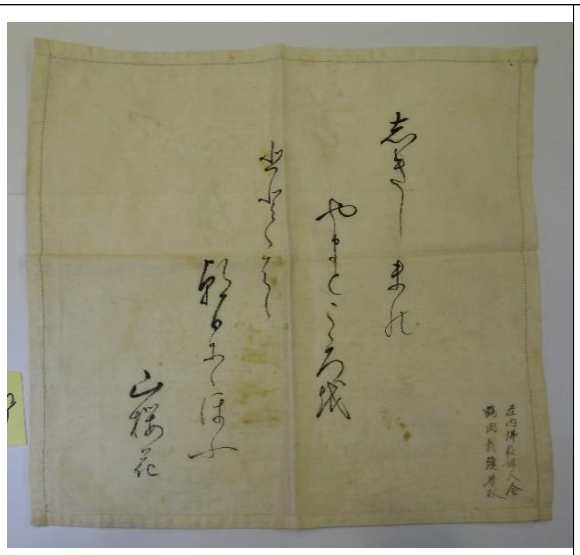
79		書籍	「昭和十七年秋季大祭記念靖国之絵巻　東條英機編」 非売品で、陸軍省・海軍省編纂のものです。昭和17年10月刊行。 岩田専太郎・志村立美・宮本三郎・田村孝之介・高井貞二・鶴田吾郎・梁川剛一・中村研一・樺島勝一・古嶋松之助・他の諸氏が絵画を寄せています。全カラー図版25点
80		手記	「ニューギニア戦線記　亡き戦友の冥福を心から祈って」 東部ニューギニア戦線に動員された日本軍（第１８軍、第４航空軍、海軍部隊）はおよそ１５万名、うち、約１２万８千名が戦没したとされています。その多くは飢餓やマラリアなどの病、さらに長距離にわたる敗走のさなかに密林や山岳地帯において斃れたとされています。元第36師団通信隊に所属した佐藤久治さんの手記です。
81		写真帖	「白襷決死隊の写真帖」 中表紙には「昭和12年　支那事変記念写真帖　竹下部隊」とあります。日中戦争(上海事変)において、敵前上陸を行った海軍陸戦隊竹下部隊の記念写真帖です。竹下部隊の一員であった加藤勝也さんの署名があります。 白襷決死隊はその後多くの著作に取り上げられ、戦意高揚に役立てられました。 ※日露戦争の旅順総攻撃で、全員白襷をかけて突撃した陸軍の決死隊、「白襷隊」(死傷者が多く中断)にちなんでつけられた部隊名かもしれません。

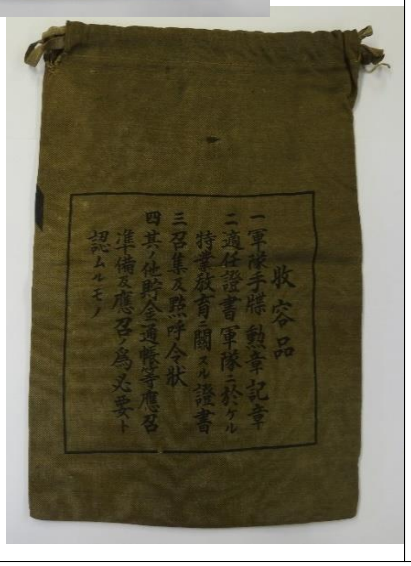
82		写真帖	「織田部隊支那事変出動記念寫眞帖」滁縣・徐州　武漢・岳陽編
83		写真帖	「織田部隊支那事変出動記念寫眞帖」呉松上陸　南京編 織田部隊長の序文に昭和14年8月とあります。
84		写真帖	「満州事変写真帖　関東軍」 昭和7年8月1日発行
85		個人写真アルバム	「日中戦争(上海事変)において、呉松敵前上陸を行った竹下隊の隊員(白襷隊)の加藤勝也さんの個人写真アルバム」

86		軍人手簿	「軍人手簿」 「手簿」には手帳という意味があるようです。「軍人勅諭」や帝国在郷軍人会についての記述があります。帝国在郷軍人会　立谷沢軍人分会と記してあります。
87		軍隊手帳	「兵士の身分証明書、経歴書となる手帳」 明治時代から使用され、兵士一人一人(下士官・兵だけで将校にはない)に配布し所持を義務付けた公式の手帳です。身分を証明するだけではなく、「軍人勅諭(ぐんじんちょくゆ)」などがつづり合わされ、兵士のモラルを保つためにも利用されました。昭和期になると「戦陣訓(せんじんくん)」が掲載されるものが出てきました。 持ち主の所属部隊・階級や住所・誕生日・身長・服や靴のサイズなどが記載されていて軍からの配給品を配るときにも役立ちました。また、出征の経歴なども記録されました。
88		戦陣訓	「戦陣訓(せんじんくん)が書かれている手帳」 戦陣訓とは、昭和16年(1941年)、陸軍大臣東条英機(とうじょうひでき)が全陸軍に発した戦場での心得のことです。「生きて虜囚(※捕虜・ほりょ)の辱(はずかし)めを受けず」という文言が有名で、敵の捕虜になっては恥だ、捕虜になるくらいなら自決(※みずから自分の命をたつこと)しなさいと教えていました。

89		軍隊手帳	87と同じ
90		青年訓練手帳	「青年訓練手帳」 青年訓練所とは、男子勤労青少年を対象とした社会教育機関です。1926年(大正15)の青年訓練所令により創設されました。全国で約1万5千の訓練所が設けられ、約百万人の青少年が入所し、主に軍事訓練を施されました。 この手帳は、青年訓練所で訓練を受ける者が持つ事を義務付けられたものです。
91		馬事提要	「馬事提要」 陸軍省発行。馬の訓練や馬術などについて記述されています。徴兵制の当時は、成人男子は軍隊で馬について知識や取り扱いを教え込まれました。 陸軍は多数の軍馬を使用しました。訓練が行われた後に部隊に移されました。使役期間は8～10年で、戦時には民間馬が徴発されました。外地に出征した軍馬のほとんどは帰還できませんでした。

92		新編軍歌集	３０と同じ 昭和15年6月12日戦死の兄の遺品と書かれています。
93		帰還者必携	「帰還者必携」 「新しい出発へ」と副題がついています。復員軍人、満州など海外からの引揚の生活支援のために、作られた冊子です。 日本国憲法や帰還者支援についての情報が紹介されています。 昭和24年、文部省(当時)発行
94		民主主義のはなし	「民主主義のはなし」 敗戦後、昭和24年、文部省(当時)が発刊した教科書。「続　民主主義のはなし」があります。 引揚者や復員者の成人教育に使われたとの記述が、「佐世保引揚援護局史」の中にあります。 末頁に、吉住さんが書かれたと思われる短歌がありました。 「父上と　我を呼ぶ子と　手を握り 　唯夢の如　ブリッヂ昇る」

95		ハンカチ	「ハンカチ様の布に書かれた愛国百人一首」 太平洋戦争中に編まれた「愛国百人一首」の中の作品で、江戸時代の国学者、本居宣長の詠んだ和歌です。 「敷島の　大和心を　人問わば　朝日ににおう　山桜花」 本来の歌の意味は、「大和心とは何かと、人に問われたならば、朝日に照り輝く山桜の美しさ、麗しさに感動する、そのような心だと考えます」というもので、戦争と結びつく内容ではありません。しかし当時この作品は、「日本の武士は、死を恐れず、死ぬべき時が来ると桜の花のようにいさぎよく散っていった」ことを歌っているととらえられ、戦意高揚に利用されたのです。 「荘内仏教婦人会　鶴岡裁縫学校」と書き込みがあります。
96		日章旗	19と同じ 「入営のお祝いとして贈られた日章旗」 武運長久を祈念して贈られたものです。 大日本国防婦人会　鶴岡支部第三分会　とあります。 大日本国防婦人会は1932年(昭和７)満州事変中に設立された女性による軍事援護、戦争協力の団体です。1942年には、他の婦人団体とともに大日本婦人会に統合されました。

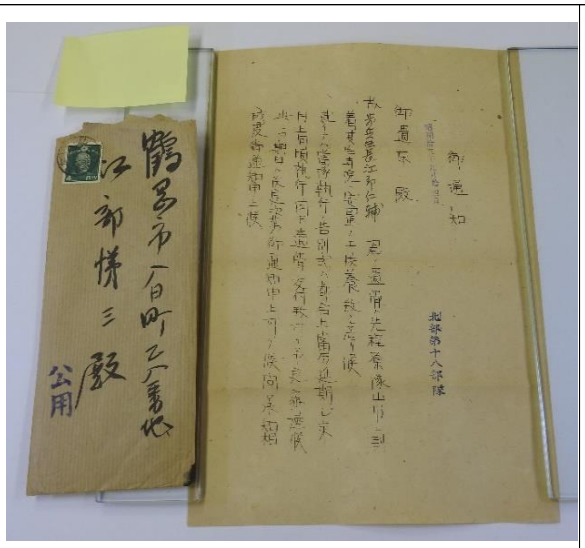
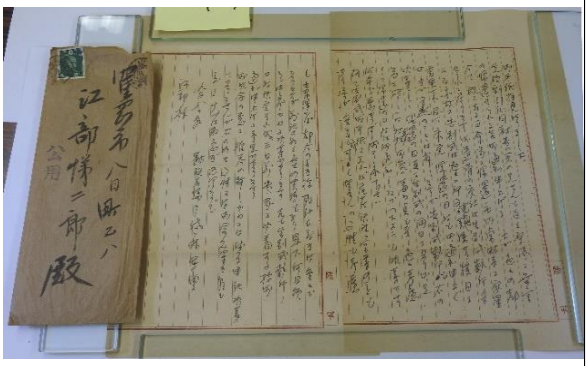
97	 	奉公袋	「軍隊で必需品(ひつじゅひん)を入れた袋」 召集のときに、兵士が持参する袋。軍隊手帳や召集令状、勲章、記章、印章、貯金通帳、風呂敷包、名札など必要なものを入れました。 陸軍では「奉公袋」、海軍では「應召袋(おうしょうぶくろ)と言います。 色は、当時、国防色として軍服、ゲートル、持ち物はカーキ色に統一されていました。

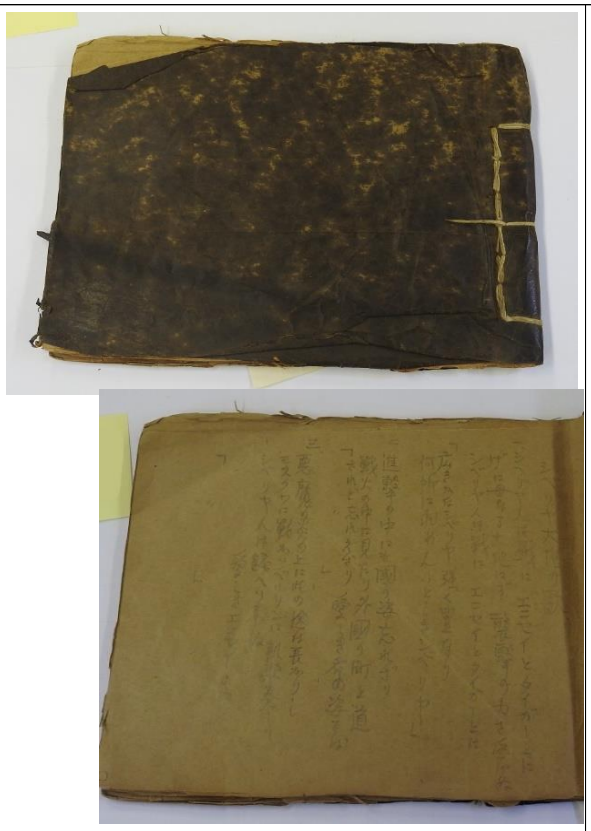
98	 	奉公袋	「軍隊で必需品(ひつじゅひん)を入れた袋」 召集のときに、兵士が持参する袋。軍隊手帳や召集令状、勲章、記章、印章、貯金通帳、風呂敷包、名札など必要なものを入れました。 陸軍では「奉公袋」、海軍では「應召袋(おうしょうぶくろ)と言います。 色は、当時、国防色として軍服、ゲートル、持ち物はカーキ色に統一されていました。

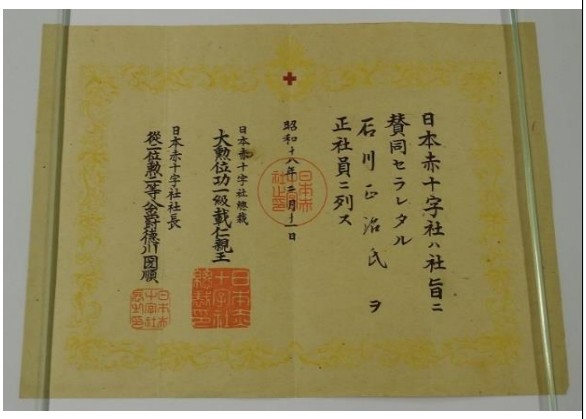
99		臨時召集令状(見本)	「兵士を招集するための命令状」 下士官、兵を召集するための召集令状や臨時召集令状。用紙が赤色であったため、通称「赤紙」と呼ばれました。 「住所氏名、召集部隊名、出頭場所、出頭日時など」が書かれており、市町村の兵事係によって届けられ、応召者が兵営に出頭した際に回収されました。
100		慰問学芸会プログラム	「傷病軍人慰問学芸会プログラム」 「錦州日本小学校」は満洲国南部の錦州省にあった小学校です。《満洲国とは、日本が満州事変によって、1932年(昭和7)に作りあげた国家で、日本が実質的に支配しました。1945年(昭和20)に日本の敗戦に伴い消滅しました。》 プログラムは、1937(昭和12)年に始まった日中戦争の傷痍軍人を慰問する学芸会のものと思われます。 プログラムには、遊戯のほか、満洲国歌や軍歌も入っています。歌われた童謡「傷病兵見舞」は創作されたものかもしれません。

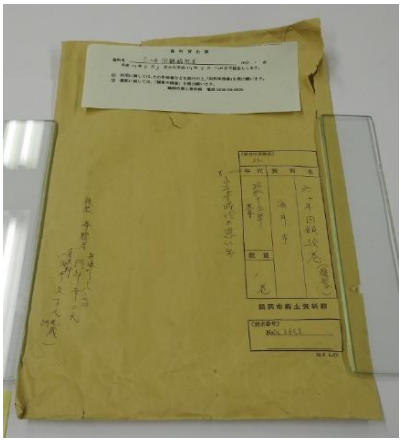
101	 	大日本国防婦人会の人形	「軍の支援の下、活動した戦争協力のための女性団体の人形」 大日本国防婦人会は、「国防は台所から」をスローガンに大阪国防婦人会が作られ、それが軍部の支持で広がり、戦争を支えるための大きな婦人団体になります。出征する兵士の見送りをしたり戦地の兵士へ慰問品を送ったりして、統制された経済の中で国民の総力戦への協力をすすめる団体でした。(昭和17年大日本婦人会に統合) 会員は、この人形のように、白いエプロンに「大日本帝国婦人会」のたすきを掛けて活動しました。 戦時中の子どもたちには有名な軍人のブロマイド(写真)なども喜ばれました。

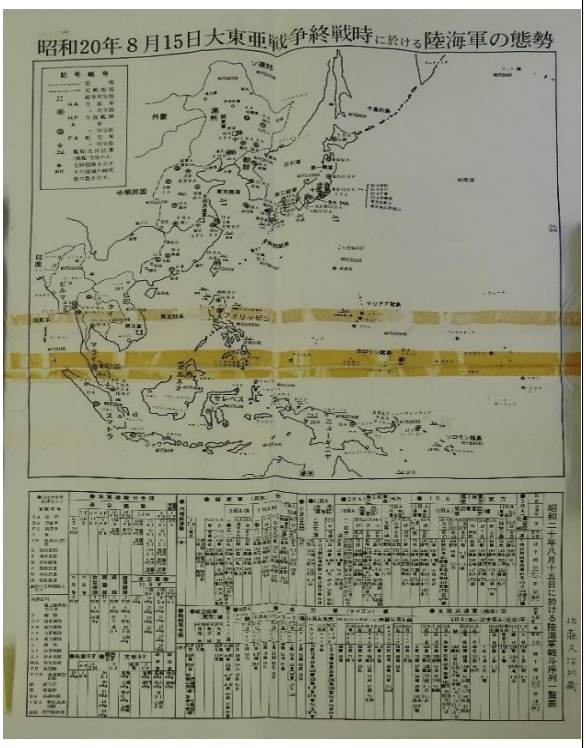
102		兵隊さんの人形	「兵隊さんの人形」 手には軍旗を持って、気を付けをしています。 遊びの面でも戦争は影を落とし、おもちゃも戦車や飛行機の模型をはじめ、「愛国イロハカルタ」、行軍将棋、兵士や武将の絵が描かれたメンコなどが主流でした。
103		写真	「第二回戦没軍人慰霊祭祭場の写真」 昭和16年10月28日、鶴岡市銃後奉公会と記されています。
104		写真	「兵士の集合写真」 向かって左側の大砲は、太平洋戦争で陸軍の主力砲の一つとして使用された、「四十一式山砲」と思われます。

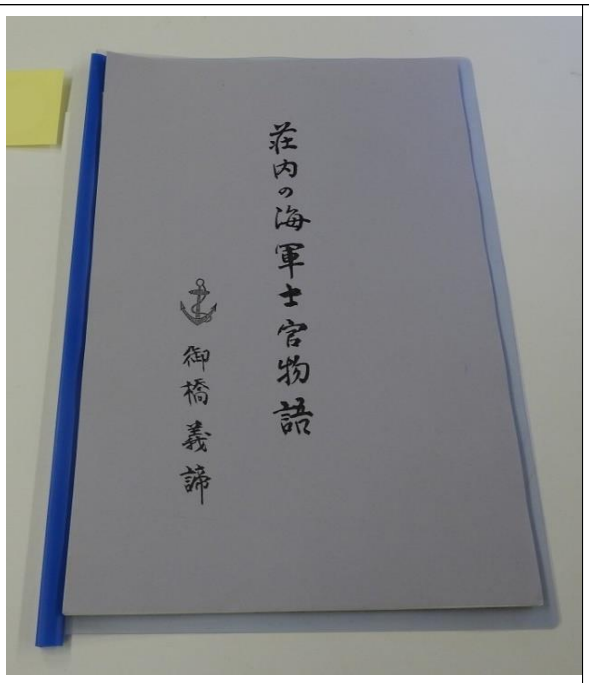
105		手紙	「江部仁輔さんの遺骨が届いたことを伝える手紙」昭和15年9月14日付け。 山形の原隊(手紙には、陸軍北部第18部隊とあります。)に遺骨が到着し、寺院で供養していること、隊での告別式の後で遺族に遺骨を引き渡す予定であることが記されています。
106		手紙	「江部仁輔さんの遺骨が届いたことを伝える手紙」 遺骨は市内の常林寺に安置していることを、軍の戦没者係りが知らせています。
107		不明	儀式などに使われたものかもしれません。詳細は不明です。

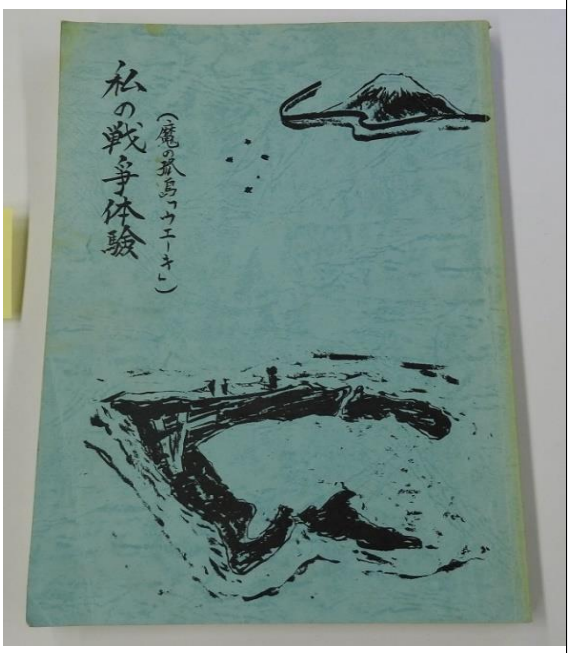
108		手記	「シベリア抑留中に書いた手記」 シベリア抑留中に考えたこと、戦闘中のこと、さまざまなことを詩にして書いています。すべて鉛筆で書かれています。
109		新聞	「新聞記事　大井篤氏の講演録　満州事変と庄内」 鶴岡市出身の元海軍大佐、大井篤氏の講演録「満州事変と庄内」が掲載されています。講演は1994年(平成6)4月16日に行われたものです。 文責は御橋義諦さんです。 荘内日報　2002年(平成14)7月16.17.18日付け

110		太平洋戦争を報じる新聞綴り	「太平洋戦争を報じる新聞綴り」 大東亜戦争(太平洋戦争)で日本がアメリカ・イギリスに宣戦布告したことを報じ宣戦布告の詔書が掲載された新聞以下、シンガポール陥落、米国本土空襲、ソロモン沖海戦、山本五十六の戦死、アッツ玉砕など敗戦に至るまでの重要紙面が集められています。 太平洋戦争の経過をたどるとともに、敗北を隠す軍部の報道について知ることができます。 東京日日新聞・大阪毎日新聞 昭和16年12月9日夕刊～昭和20年8月15日
111		証書	「日本赤十字社の正社員の証書」 昭和18年2月11日の日付です。

112	 	絵巻	「六ヶ年回顧絵巻(複製)」 酒井求さんが、昭和7年から13年までの、朝陽第二小学生時代の思い出を絵巻物にしたものです。 現在の小学校生活と比較してみると、多くの違いに気づきます。
113		新聞	「シンガポール陥落を報じる新聞」 シンガポールのイギリス軍が日本軍に無条件降伏したことを報じています。 朝日新聞　昭和17年2月17日付け。

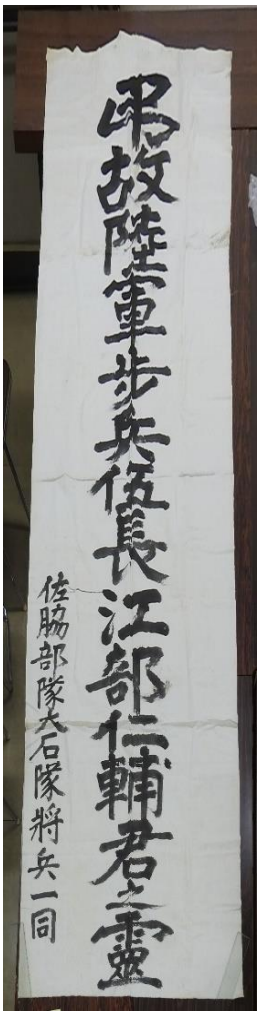
114		新聞	「敗戦・ポツダム宣言受諾を報じる新聞」 終戦の詔書が掲載されています。 読売新聞　昭和20年8月15日付け。
115		地図資料	「昭和20年8月15日大東亜戦争終結時に於ける陸海軍の態勢を表した地図」 終戦時の日本軍の配置状況や戦死者数を記した資料です。 各地の戦死者数の記載があります。「玉砕部隊」「特攻戦隊」といった記述があります。

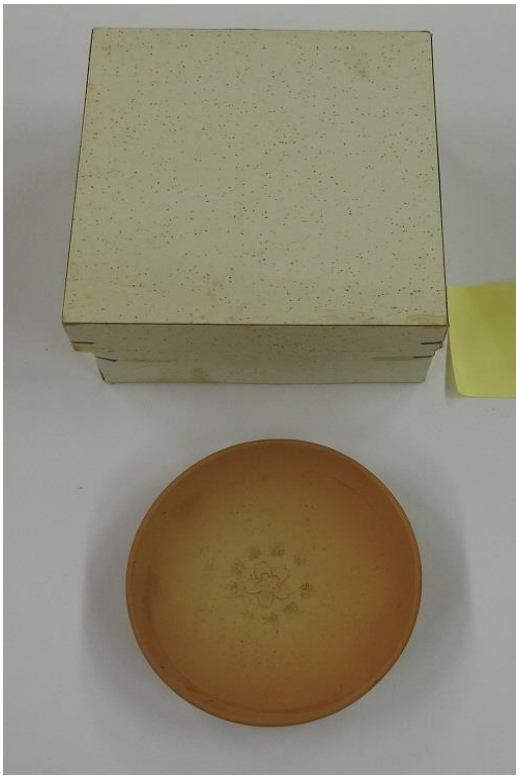
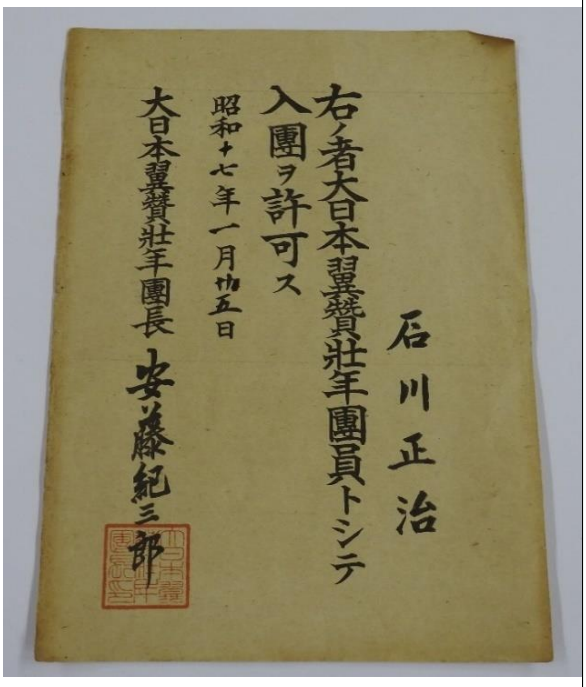
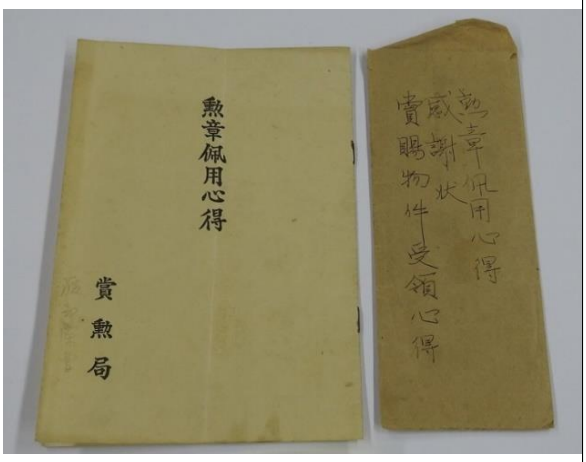
116		小冊子	「荘内の海軍士官物語」 庄内出身の海軍士官の人たちを紹介した小冊子です。 2003年9月発行　御橋義諦氏著

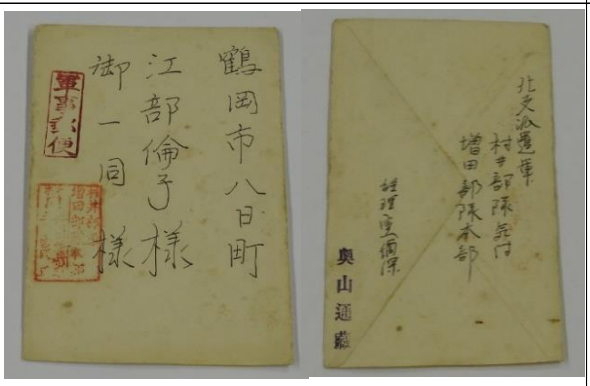
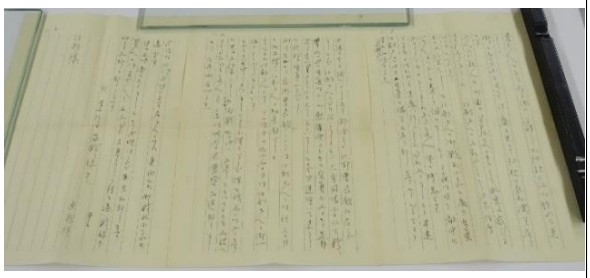
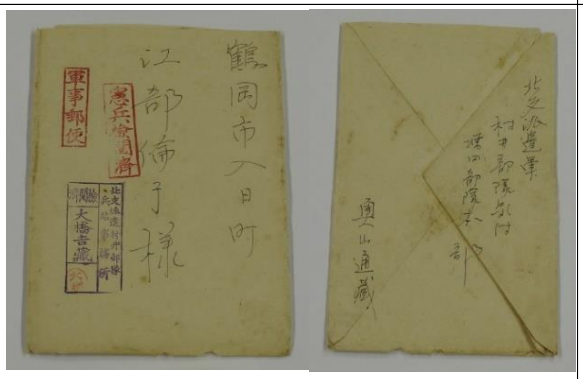
117		ネームプレート	「海軍兵学校生徒のネームプレート」 御橋さんが、海軍兵学校で使ったものです。
118		手記	「私の戦争体験　魔の孤島(ウエーキ)」
119		千人針	「出征兵士の武運長久・安泰を願うお守り」 布に1000人の女性が一人一針ずつ縫い玉を作りました。 「死線(四銭)、苦戦(九銭)をこえる」という願いをこめて、五銭玉と十銭玉を縫い付けています。

120		千人針	「出征兵士の武運長久・安泰を願うお守り」 「虎は千里を行って千里を帰る」との故事にちなみます。 大勢の人が召集を受けるようになると、街のあちこちで千人針を求める女性たちの姿が見られました。
121		日章旗	「入営のお祝いとして贈られた日章旗」「兵士の無事を祈って寄せ書きをされた日章旗」 兵士が出征する際、戦地における無事を祈って、家族や身近な人々から日の丸に寄せ書きをしたものが贈られました。出征する人は、お守りとして、戦場で大切に身につけました。 戦後アメリカ兵が本国に持ち帰ったものが返還された例もあります。
122		日章旗	「従軍を記念して寄せ書きをされた国旗」 この国旗は、従軍を記念して寄せ書きをされたもののようです。「白襷隊」などの字句が見え、第二次上海事変(昭和12年～)でのもののように見えます。 国旗には、東京大日本国防女子青年団から贈られたと書かれています。
123		飯盒(はんごう)	「戦地で使われた飯盒」 炊飯兼用の弁当箱。野戦での必需品。 兵士一人ひとりに支給され、行軍の際は肌身離さず持ち続けました。 飯盒のふたは、シベリア抑留者にとってスープの皿代わりになったそうです。

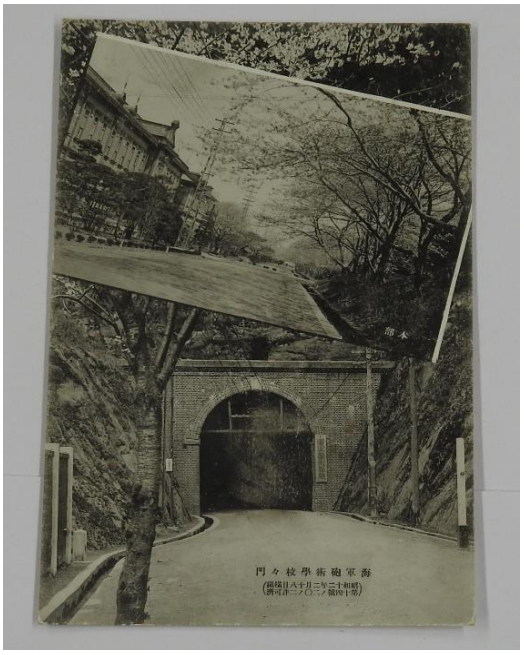
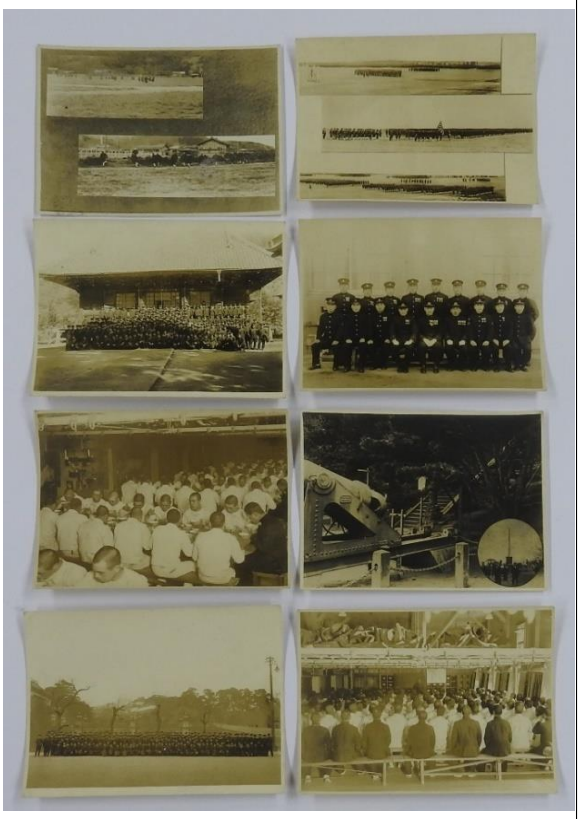
124	 	携帯天幕(テント)	「日本陸軍の携帯天幕(テント)」 歩兵が、行軍中の野営の際に使用したものです。背嚢につけて、背負って移動しました。
125		上着	「抑留時にソ連から支給された上着」 ボタンにロシア語の文字があります。
126		軍服	「軍服のズボン」 陸軍の軍服。 ボタンに英語で「for gentleman」とあります。

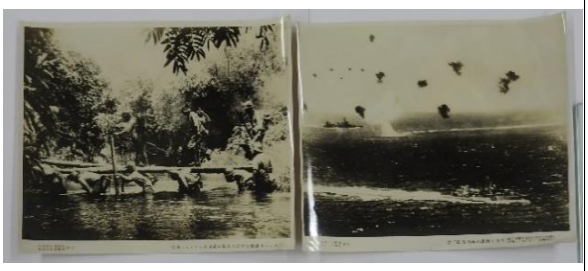
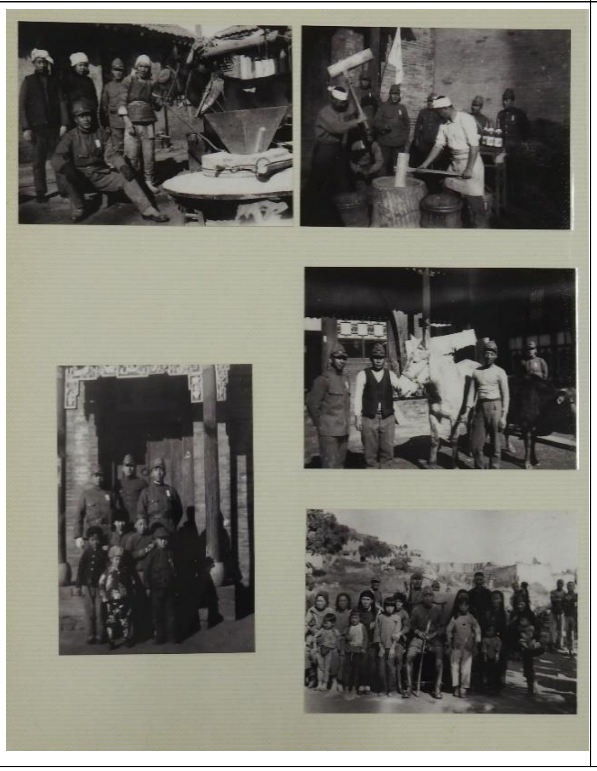
127		軍服	「軍服の上着」 陸軍少尉の軍服。右下は襟章です。 無地の金属のボタンを使用しています。
128		軍服	「軍服の上着」 陸軍歩兵の軍服です。 無地の金属のボタンを使用しています。
129		弔幟(葬儀に掲げられた幟)	「戦死した江部仁輔さんの所属した部隊から贈られた慰霊の幟」

130		盃	「凱旋記念の盃」 満州事変、日支事変(日中戦争)などの凱旋記念として贈られた杯と思われます。 「靖国神社別格官幣社」の文字があります。
131		大日本翼賛壮年団員入団許可証	「大日本翼賛壮年団員入団許可証」 1942年1月16日、大政翼賛運動を推進する青少年を結集して組織された団体の入団許可証。全国で130万人の団員を擁しました。
132		心得	「勲章佩用心得」 勲章の取り扱いについて記載したものです。感謝状とともに送られたもののようです。 賞勲局発行。

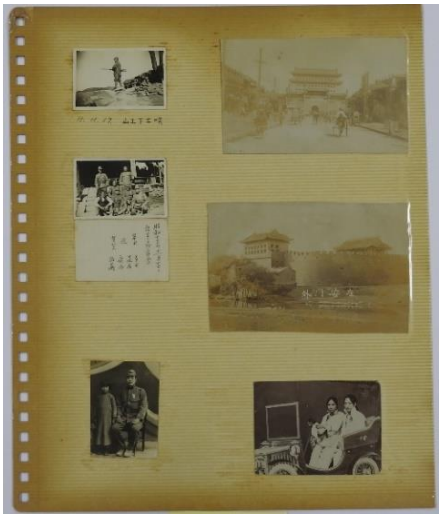
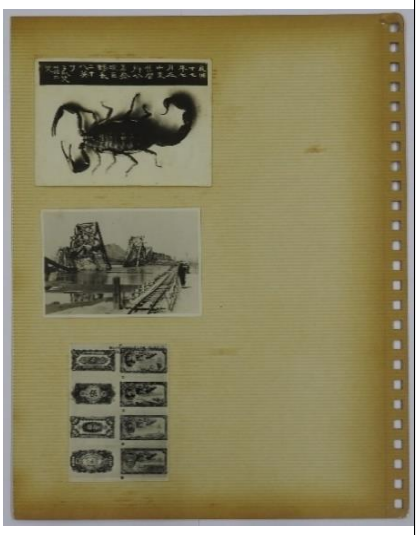
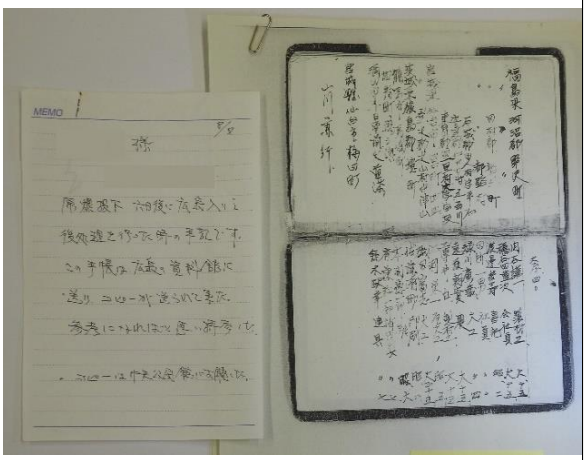
133		工芸品	「スケルトンリーフ(葉脈標本)のおみやげ」 中国で、おみやげとして作られた工芸品のスケルトンリーフ(葉脈標本)です。 葉脈を残した葉(菩提樹など)の標本に、細やかな絵を描きこんでいます。
134	 	軍事郵便(封筒と手紙)	「北支派遣軍村井部隊で戦死した江部仁輔さんの遺族に部隊から送られた手紙」 手紙には江部さんが戦死した地は敵中にあり、その地の写真や江部さんへのお供えはできない旨などを記しています。江部さんの写真を預かり、お送りしたことが記載されています。奥山通蔵さんの署名があります。
135	 	軍事郵便	「部隊から届けられた、戦死した江部仁輔さんの写真」 封筒は北支派遣軍村井部隊からとあり、戦死した江部仁輔さんの所属部隊から遺族の方へあてたものです。 差出人は奥山通蔵さんです。

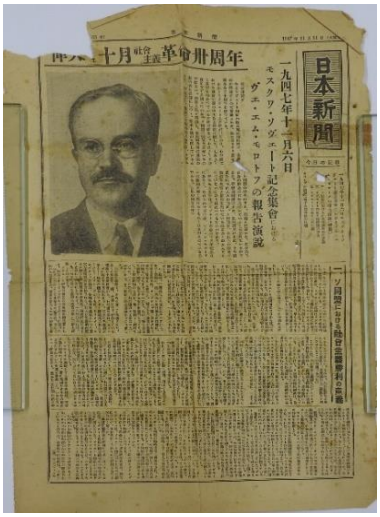
136		写真	「砲術教練などの軍事訓練の写真」 入営先での訓練の様子を記録した写真と思われます。写真に、「技を練り、わが海軍の光をば」などど記されてあり、海軍のものと考えられます。 裏に練兵場と書かれた写真があります。
137		おみやげ	「スケルトンリーフ(葉脈標本)のおみやげ」 中国の工芸品。おみやげとして作られたスケルトンリーフのようです。 葉脈を残した葉の標本に、細やかな絵を描きこんでいます。
138		絵ハガキ	支那風俗の文字があります。 「中国(満州)の習俗を描いた、絵ハガキ」で、左は散髪、右は遊びの絵です。8枚ほどセットで作られたもののようです。

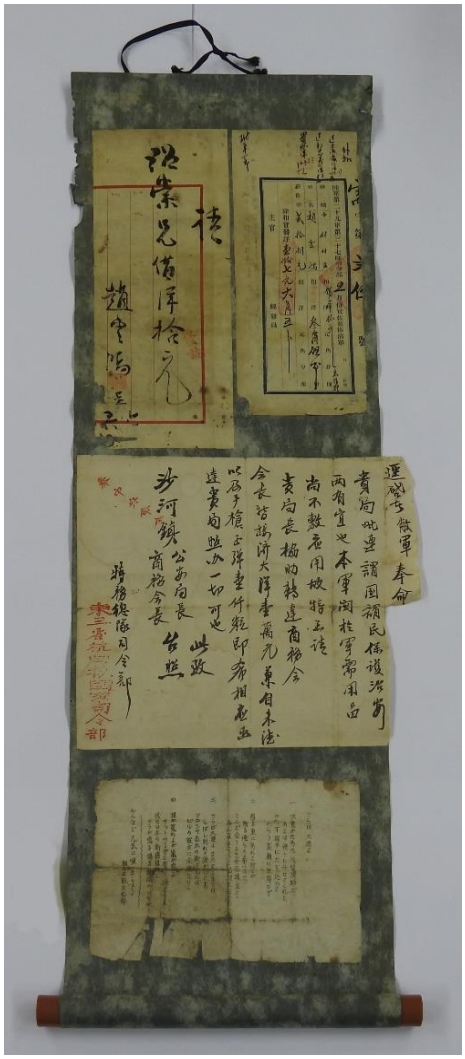
139		絵葉書	「海軍砲術学校校門と本部の絵ハガキ」 海軍砲術学校は、横須賀と千葉県の館山にありました。 これは横須賀の写真と思われます。トンネルの入り口に海軍砲術学校の文字が見えます。
140		写真	「入営先での食事風景や集合写真など、生活の様子を記録した写真」 海軍の軍服を着て通っている写真があります。
141		写真	「入営先で洗濯をしている写真?」 一斉に洗濯をしている写真と思われます。左手に干し物が下がっています。艦船の航海中は甲板で洗濯をするという記録もあり、訓練の一つかもしれません。

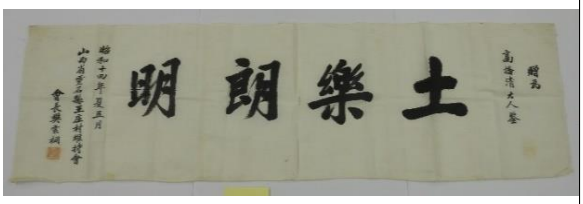
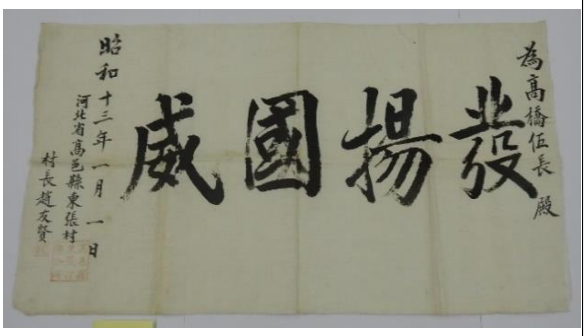
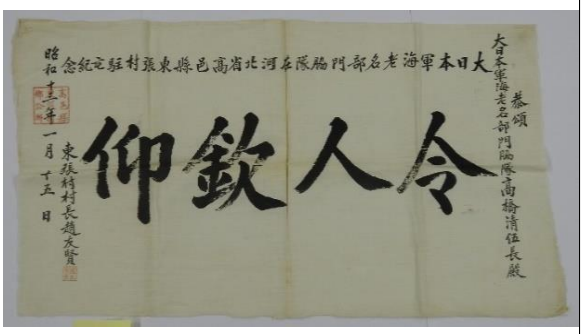
142		写真	「北支に出征した江部仁輔さんの写真」
143		写真	「陸海軍の進軍を報じる新聞社の報道写真」 ジャングルでの進軍、珊瑚海で日本軍の攻撃を受ける敵艦船と書かれています。
144		ポスター	「軍艦　霧島のポスター」 戦争当時、軍艦の絵の絵ハガキやポスターが、多く作られていたようです。昭和天皇の肖像も描かれています。
145		写真	「部隊の出征先中国?での生活記録写真」

146	 	写真アルバム	「部隊の出征先での生活の様子を収めた個人の写真アルバム」

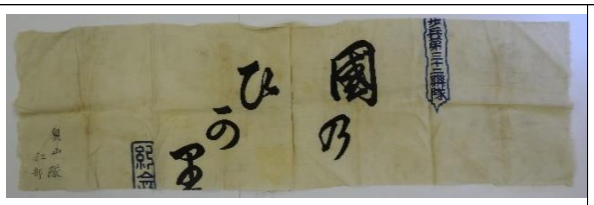
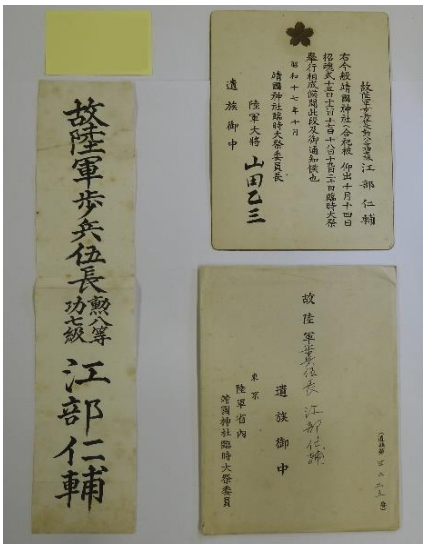
147	 	写真アルバム	「出征先のスナップや文物を記録した個人の写真アルバム・スクラップブック」 昭和13年11月17日 「王居村宿舎に於いて」と書かれた写真があり、場所は河北省王居村(北京市の南方)と思われます。服装から、満洲よりも温暖な地域であることがわかります。 また「左安門外」と書かれた写真もあり、場所は北京市内と思われます。
148		手記等の記録	「原爆投下6日後に、広島入りして救護活動(後処理)にあたった東北各地の部隊の記録」 原爆投下直後の広島で後処理にあたった時の手記のコピーです。参加者の氏名、現地までの行程、作業時の記録などです。8月12日の入市時には、「惨状目をおおわしむるものあり、原子爆弾の猛烈さを始めて見た・・」の書き出しで、現地の悲惨な状況を記しています。 手記をしたためた手帳は広島の原爆資料館に寄贈したとあります。

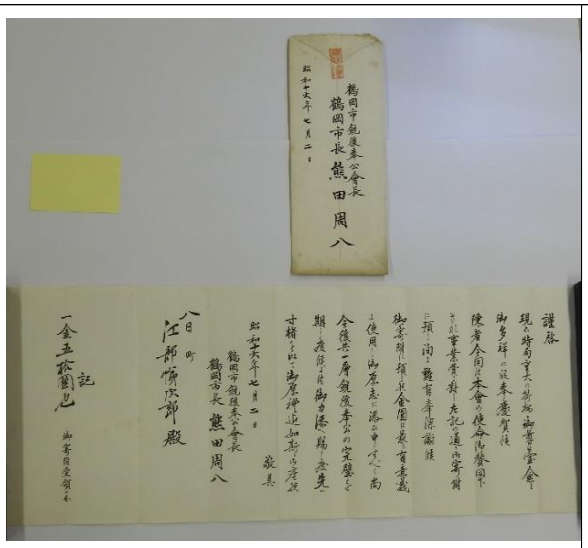
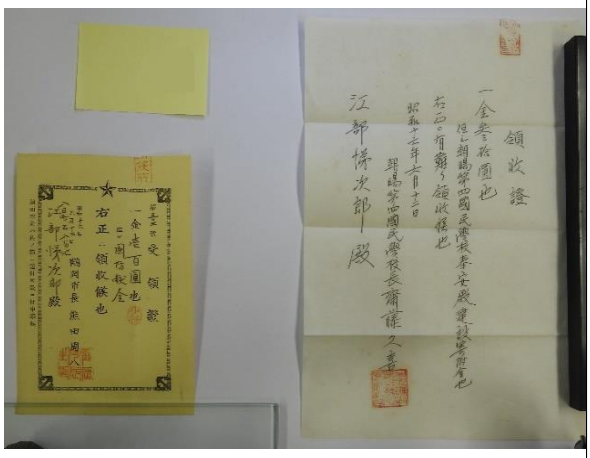
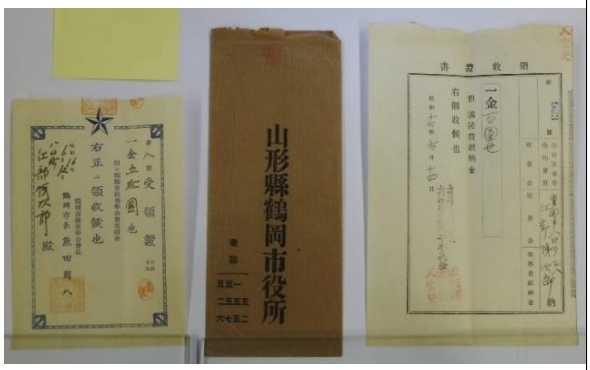
149		新聞	「A級戦犯の刑が執行されたことを報じる新聞」 A級戦犯とは、第二次世界大戦後、連合国の国際軍事裁判で「平和に対する罪」により裁かれた重大戦争犯罪人の呼称です。 日本では、極東国際軍事裁判(東京裁判)に28名が起訴され、免訴された3名を除き、25被告全員が有罪になり、うち7名が絞首刑になりました。 昭和23年12月24日、朝日新聞
150	 	新聞	「日本新聞」 ソ連が、シベリア抑留者に向け発刊した新聞。 ソ連側主導のもとに、制作にはソ連側編集員の他、多数の日本人捕虜が参加しました。国際情勢、日本事情、ソ連事情、各収容所の動きを社会主義の立場から伝えました。 1945年9月15日から1949年12月30日まで662号が発刊されました。 これは1947年11月11日付のもの。

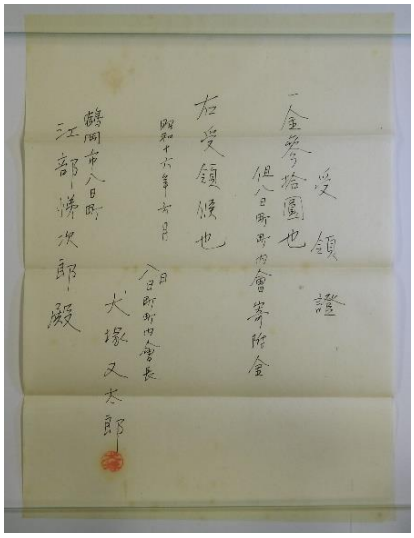
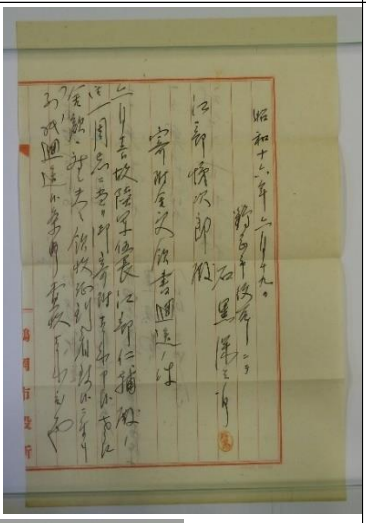
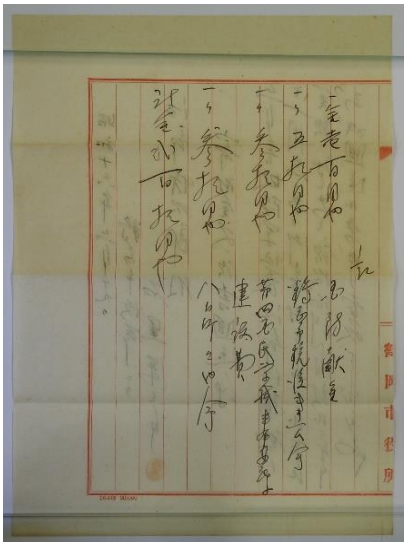
151		巻物	「終戦後、技術者などの理由で、中国から徴用され引揚げの遅れた方が、帰国の際記念にしたい文書等を巻物につづったものか?」 上段は「お金の借用書」で、中段は「軍から地方の公安局長と商務会(商工会)長に対しての奉命書」、下段は「さらば大連よ」という歌の歌詞で、「ラバウル小唄」の節で歌われたものと思われます。
152		盃	「盃」 大正4年11月に、大正天皇の即位式が行われており、関連する盃と思われます。 盃の表に「賜饌」の文字があり、裏には「大正4年11月16日　於神戸」とあります。賜饌とは神にそなえる食物の意味です。 木箱には神酒と書かれています。

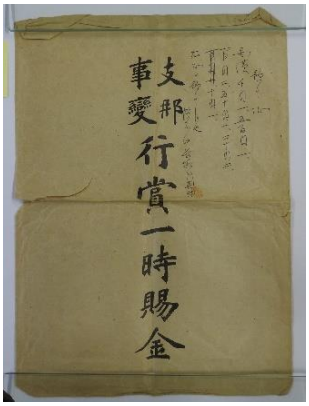
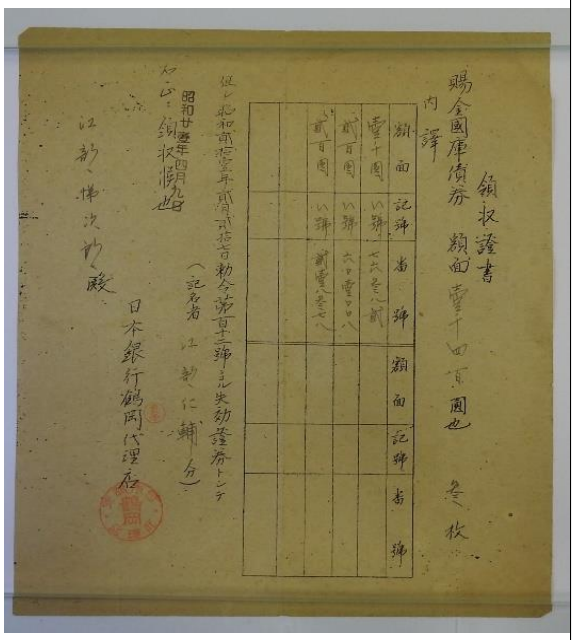
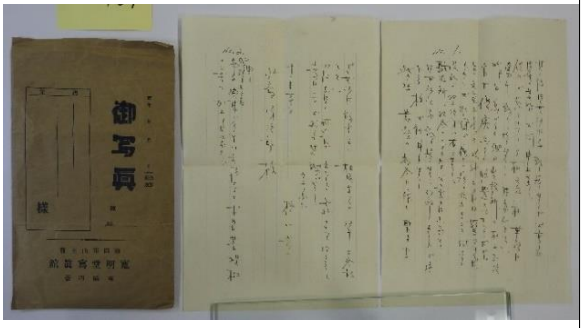
153		日章旗	「日章旗」 鶴岡市と書かれています。
154		記念品	「日中戦争中に、高橋清伍長に中国の地区長から贈られた記念品」 昭和14年夏5月　山西省霊石縣王庄村維持会　会長　□雲桐と贈り主が記されています。高橋伍長に、「この土地で楽しく過ごして下さい」という気持ちを表現しています。
155		記念品	「日中戦争中に高橋清(伍長)さんに中国の村長から贈られた記念品」 昭和13年1月1日　河北省高邑縣東張村　村長　趙友賢　と贈り主が記されています。
156		記念品	「日中戦争中に、高橋清(伍長)さんに中国の村長から贈られた記念品」 大日本軍海老名部門脇隊駐屯紀念として贈られたものです。 尊敬する人へ贈る言葉で、「私はあなたの行為・人柄を尊敬いたします」の意味があります。 昭和13年1月15日　河北省高邑縣東張村　村長　趙友賢　と贈り主が記されています。

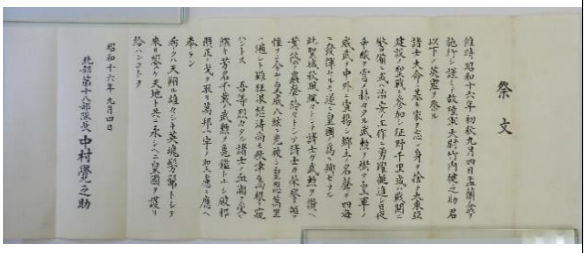
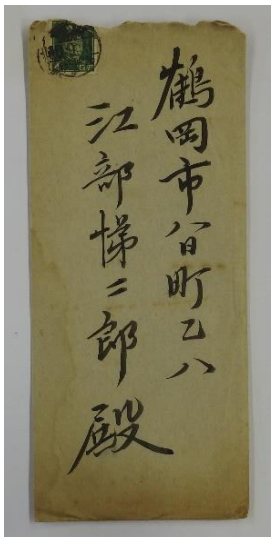
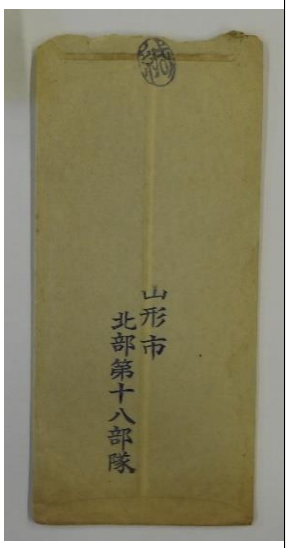
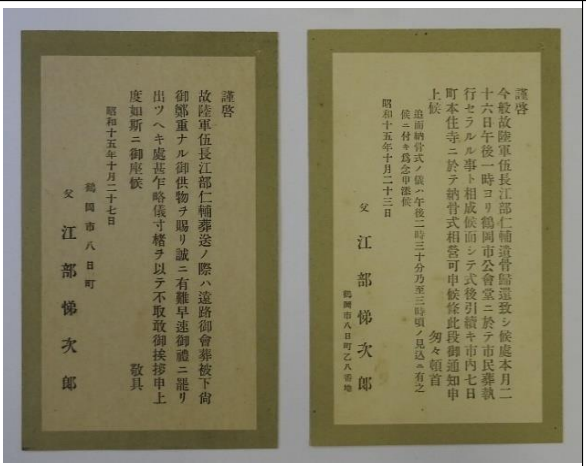
157		御供物袋など	「戦死された江部仁輔さんの葬儀の御供物袋」 贈り主は、両陛下や軍の関係者、県・市長などからのもの。
158		お守り袋	「お守り袋」 何枚ものお守りを大切にしまった袋です。肌身はなさず身につけていたものと思われます。
159		戦死者の遺族に関わる物品	「戦死した江部仁輔さんの遺族に関わる物品」 戦死した方が祀られた靖国神社に向かうための鉄道の乗車券(靖国神社祭ご遺族優待鉄道乗車券)や軍人遺族記章授与証書など。 乗車券の日付は昭和17年10月10日から10月15日となっています。
160		写真	「海軍砲術学校での訓練の写真」 海軍野砲陸上操練、海軍砲術学校学生砲隊教練と記してあります。

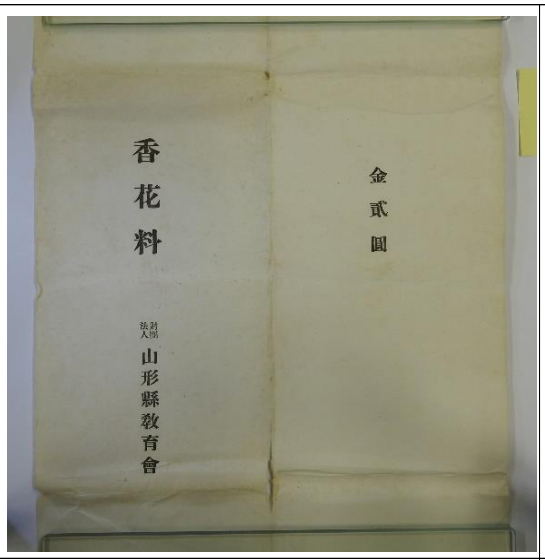
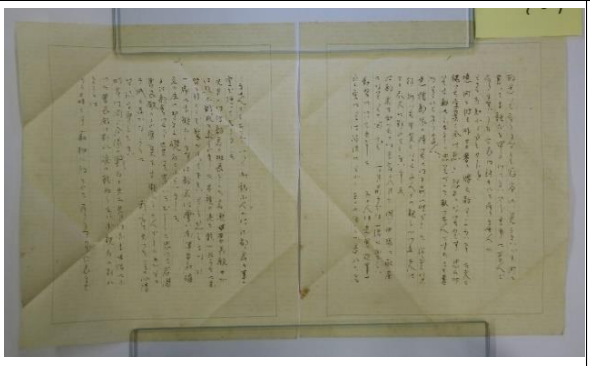
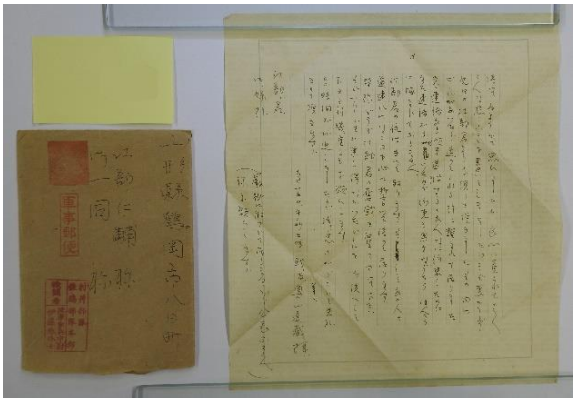
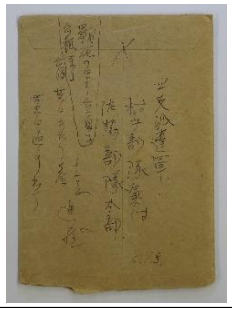
161		手拭い	「戦死した江部さんの所持していた連隊の記念の手拭い」 「国のひ可里(ひかり)」と書かれています。 第32連隊　奥山隊　江部と記名があります。
162		腹巻?	「江部さんの使用していた腹巻の一部?」 江部伍長　慰(遺)留品と書かれています。江部さんの遺品の一つでしょうか。
163		通知	「遺族の方に戦死した江部さんの靖国神社合祀と、招魂式・臨時大祭挙行を知らせる通知」 昭和17年10月 故陸軍歩兵伍長　勲八等・功七級　江部仁輔　とあります。

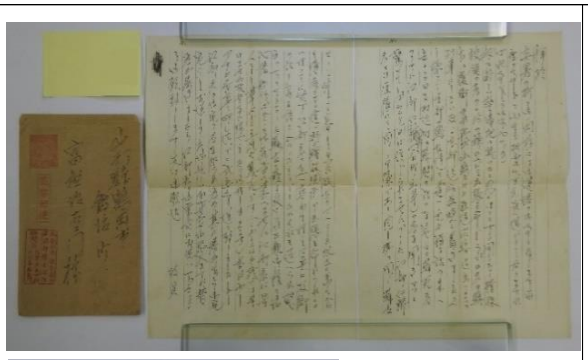
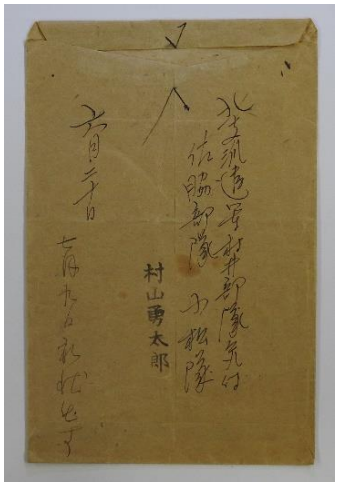
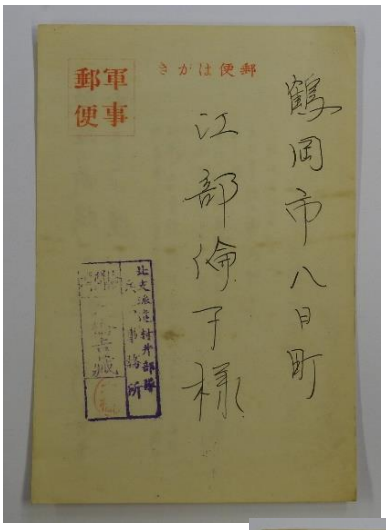
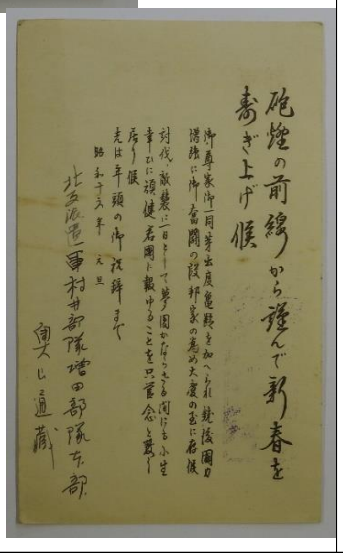
164		礼状	「江部さんの遺族が鶴岡市銃後奉公会に寄付をしたことに対する礼状」
165		受領証と領収証	「江部さんの遺族の国防献金の受領証」 「江部さんの遺族の朝暘第四国民学校(小学校)奉安殿建設への寄付金に対する領収証」 奉安殿とは学校に下賜された、天皇と皇后の写真(御真影)や教育勅語などを安置する建物。
166		受領証と領収証書	「江部さんの遺族の鶴岡市銃後奉公会への寄付金の受領証」 「江部さんの遺族の国防費献納の領収証書」

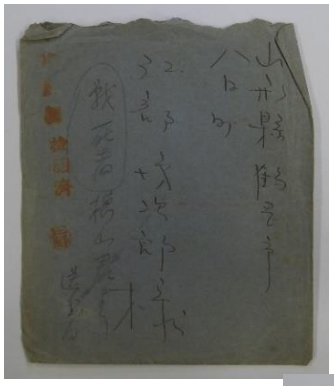
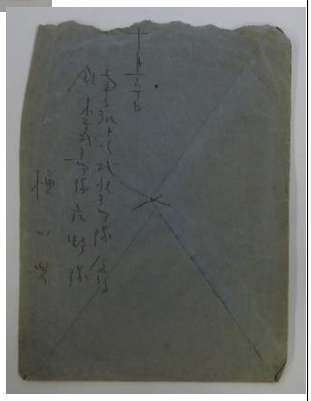
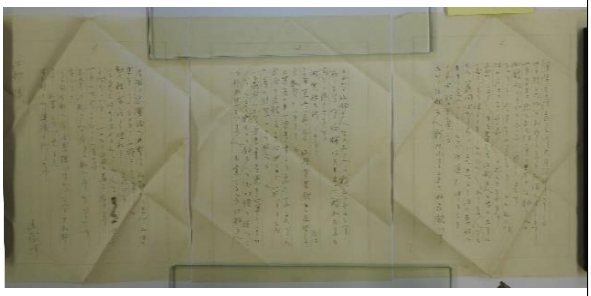
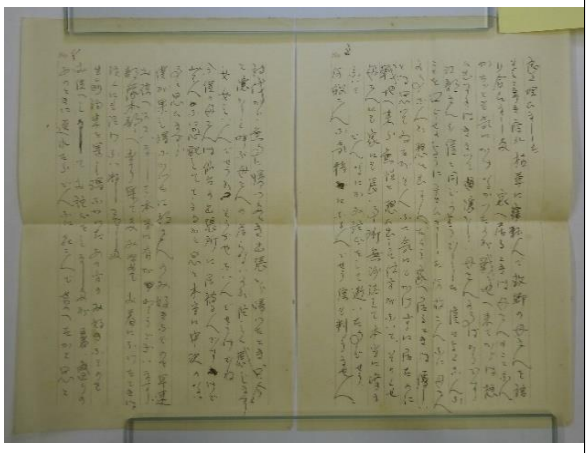
167		受領証	「江部さんの遺族の八日町町内会への寄付金の受領証」
168	 	寄付金受領記録	「江部さんの遺族の寄付金受領についての記録」 鶴岡市役所を通しての遺族の国防献金や寄付に関することが記されています。

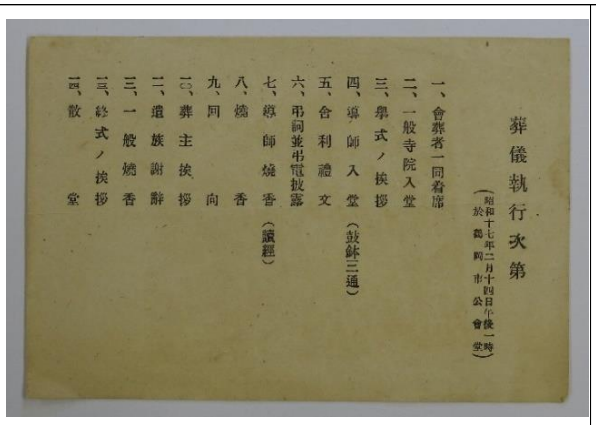
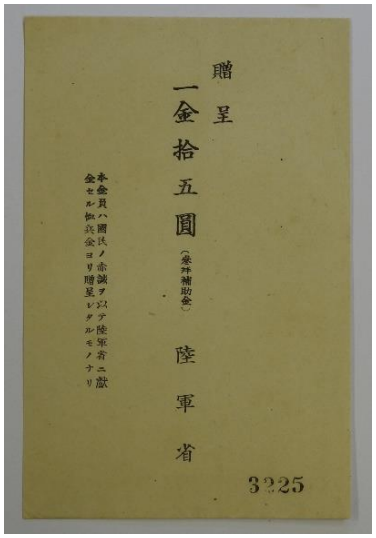
169		封筒	「支那事変行賞一時 賜金」 日中戦争（支那事変）及び太平洋戦争（大東亜戦争）の論功行賞として金鵄勲章授与者等の功労者に対して与えられました。賜金国庫債券として支給されています。
170		領収証書	「賜金国庫債券を日本銀行が領収した証書」 日本銀行が、戦死者の遺族の賜金国庫債券が無効になったことで、遺族からそれを領収した詔書です。 昭和21年の勅令第112号により、戦死者の遺族への恩賜国債が無効とされました。 また同年、旧軍人の恩給も廃止されますが、昭和27年の平和条約発効後、昭和28年に恩給法の大改正があり旧軍人恩給が復活しています。
171		写真と手紙	「江部仁輔さんの写真と遺族にあてた手紙」 横山さんから遺族の方にあてた手紙です。 左下の絵ハガキは、１４３の絵ハガキと同一セット

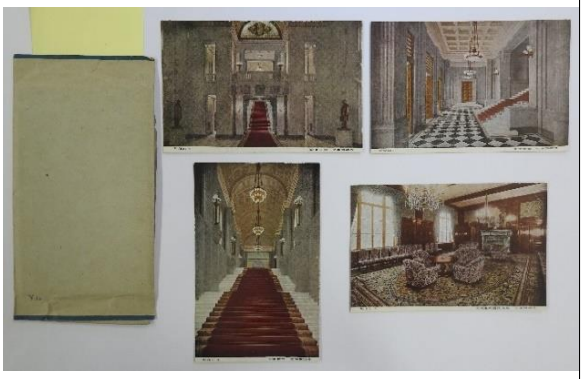
172		戒名を記したお札と写真	「江部仁輔さんのご葬儀の祭壇と戒名」 祭壇には多くの供物があげられています。写真には戒名を記した紙を貼ったと思われる白木の位牌が写っています。その紙には、昭和15年6月12日の日付があり、５８の恩賜金の趣意書の日付と同じ日になっています。
173	  	祭文と封筒	「山形市の部隊長名で戦死者の遺族に出された祭文(さいもん)」 山形市北部第18部隊長名で、昭和16年9月14日の盂蘭盆に際しての祭文(祭祀の際に奏上する祈願の文)が届けられています。
174		葬儀のあいさつ文	「戦死者の遺族への鶴岡市公会堂での市民葬と納骨式の案内とその参列者や供物の贈り主に対しての礼状」

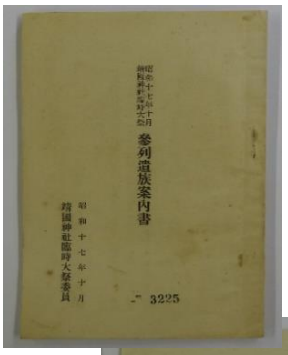
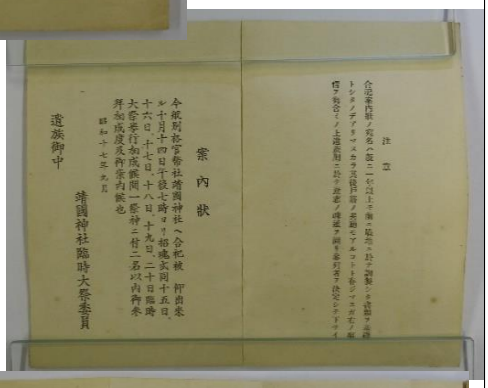
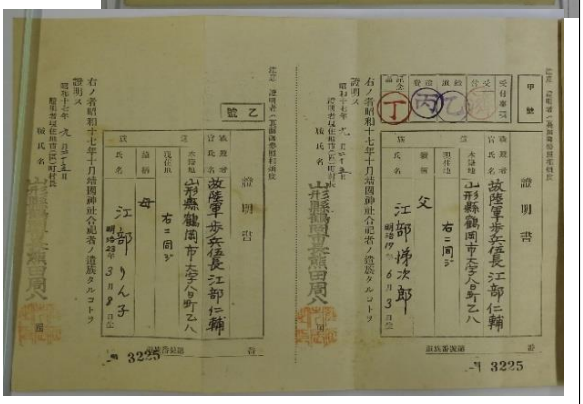
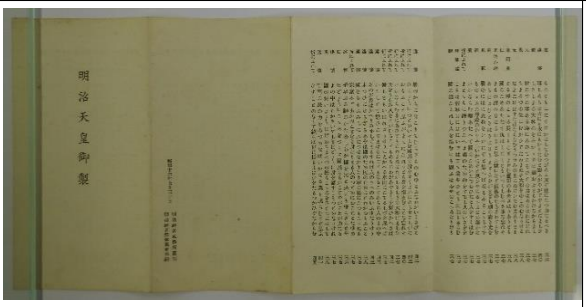
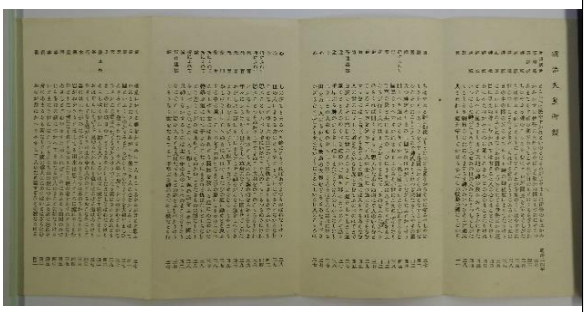
175		包み紙	「戦死者への香花料を包んだ包み紙」 山形県教育会から贈られたものです。
176	  	手紙(軍事郵便)	「戦死者の友人からの手紙」 江部仁輔さんの戦死を知った同部隊の奥山通蔵さんから、江部さんの遺族にあてた手紙です。親友であった江部さんを失った、奥山さんの心情の伝わる、悲しい手紙です。 ビールを江部さんに贈る生前の約束が果たせなかったので、遺族の方にお供えにビールをとお願いしています。 親友を思う気持ちのあまり、戦死を知ってすぐ、正式な公表を待たずに極秘で遺族の方にしたためた手紙といった文面があります。 日付は(昭和15年)6月13日午前3時、戦友奥山通蔵と記してあり、戦死を聞いてすぐに書かれたもののようです。

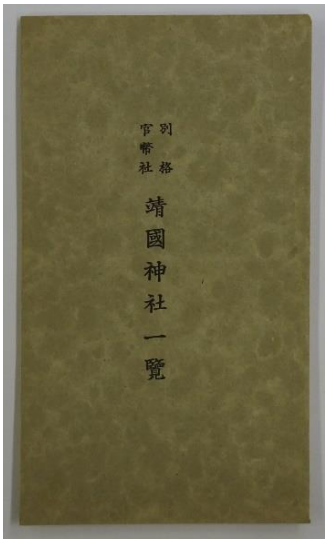
177	 	手紙(軍事郵便)	「戦死者の友人からの手紙」 江部仁輔さんの戦死を知った同郷の村山勇太郎さんからの手紙です。 江部さんの住所がわからなかったので、鶴岡市の鍛冶町の方あての郵便となっています。手紙では戦死の様子を伝えられないので、帰ったらお話したいと記してあります。 伏字がところどころで使われています。 日付は(昭和15年)6月20日です。
178	 	ハガキ(軍事郵便)	「戦地から送られた年賀状」 戦死した戦友の母親にあてた年賀状。 本文は印刷されたものですが、文章から戦場からのものであることが感じられます。 昭和16年元旦の年賀状です。

179	 	封筒(軍事郵便)	「戦地から戦死者の遺族に送られた手紙の封筒」 送り主は横山〇となっています。 封筒の表に「戦死者　横山君より送らる」とメモ書きがあります。江部さんの遺族に181の写真を送ってくれた人かもしれません。
180		手紙	「戦地から戦死者の遺族に送られた手紙」 送り主が、署名から、176の手紙を書いた親友の奥山通蔵さんのようです。手を尽くして見つけた江部さんの写真を同封したと書かれています。写真には同じ部隊の上官や戦友が写っていると書いています。
181		手紙	「戦地から戦死者の遺族に送られた手紙の一部」 番号が３と4と書かれた便箋だけで、その前後が見当たりません。江部仁輔さんとの思い出を書いていて、江部さんが「戦地へ来てからは想い出すのは決まって懐かしい母さんのことばかりです」と口癖のように言っていたと書いています。 署名の書かれた便箋が見当たらず、どなたの書かれた手紙かわかりません。(文字から奥山通蔵さんのものと想像されます)

182		葬儀の次第	「葬儀執行次第」 昭和17年2月14日午後1時から、鶴岡市執り行われた葬儀の次第です。
183		参拝補助金袋	「陸軍省から遺族に贈呈された参拝補助金の袋」 靖国神社の大祭に参列する、戦死者の遺族に贈られた参拝補助金の金額と合わせて、補助金が国民の献金から贈呈されていると記されています。 通し番号の3225は、江部仁輔さん遺族が靖国神社に参拝する際の鉄道の乗車券と同じ番号です。
184		絵ハガキ	「山形歩兵第32連隊の絵ハガキ」 歩兵第32連隊は、山形県人を中心に編成された連隊。しばしば激戦地に派遣されました。満州事変、日中戦争に参戦し、太平洋戦争においては、サイパン島や沖縄にも派遣されています。 連隊本部は山形城(霞城)跡におかれていました。

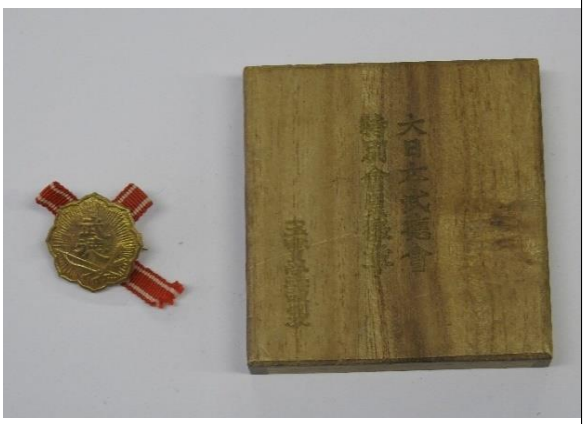
185	 	絵ハガキセット	「帝国議会議事堂の絵ハガキセット」 1936年11月に竣工式を行った、帝国議会議事堂の絵ハガキセットです。 太平洋戦争末期には、空襲を避けるために、外壁が黒く塗られたそうです。 空襲による破壊を免れ、現在も国会議事堂として使用されています。
186		絵ハガキセット	「靖国神社臨時大祭の記念絵ハガキセット」

187	  	靖国神社臨時大祭に関する文書	「靖国神社臨時大祭参列遺族案内書」「案内状」「靖国神社合祀者の遺族であることの証明書」 昭和17年10月の靖国神社臨時大祭への案内などで、「案内状」には、参列する遺族は2名以内と記してあります。
188	 	和歌集	「明治天皇御製(ぎょせい)」 明治天皇の詠んだ和歌集。 御製とは天皇が作った詩歌や文章のことです。

189		小冊子	「靖国神社一覧」 靖国神社の解説書にあたるものです。 神社のいわれや、写真、地図などが収められています。
190	 	新聞	「日本新聞」 150と同じ。 ソ連が、シベリア抑留者に向け発刊した新聞。 これは1947年10月9日・11日付のもの。
191		日章旗	「江部仁輔さんの出征を祝い、寄せ書きをされた日章旗」 １９と同じ

192		日章旗	「江部仁輔さんの出征を祝い、寄せ書きをされた日章旗」 １９と同じ どちらにも「武運長久」の文字があります。
193		日章旗	「寄せ書きをされた日章旗」 「武運長久」の文字があることから、１９と同じ、出征や入営のお祝いとして贈られたものと思われます。
194		記章	「国境事変従軍記章」 1939年(昭和14)のノモンハン事件(日本軍とソ連軍の間に起こった国境紛争事件)に従軍した兵士に与えられたものです。満洲国が発行しましたが、授与者の大半は日本人でした。 国境事変はノモンハン事件のことです。

195		徽章	「国勢調査員徽章」 大正９年７月２０日に、井上仁吉さんが国から授与された国勢調査員の徽章です。これは第一回の国勢調査で、国勢調査員が徽章を左胸に付けて調査活動を行いました。 徽章の裏面には日本地図が描かれていて、大正９年10月1日とあります。
196		徽章	「国勢調査徽章」 昭和10年の国勢調査員の使用したものです。
197	 	徽章	「帝国在郷軍人会徽章」 ６と同じ。 裏ぶたには、会員徽章は勅令によって制定されたもので、会員以外のものが佩用した場合は罰せられると記してあります。 昭和11年9月25日付。

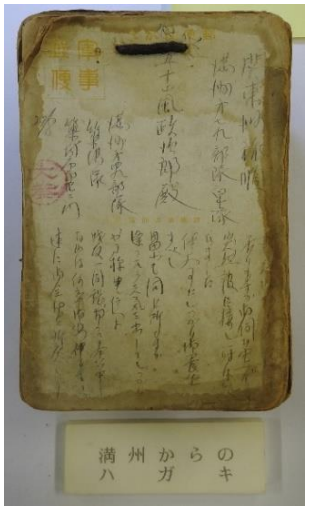
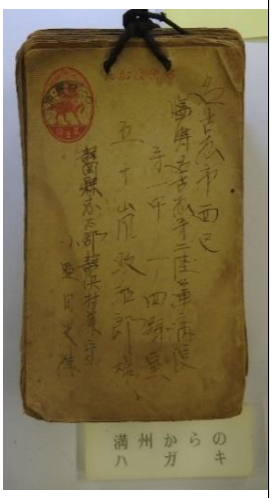
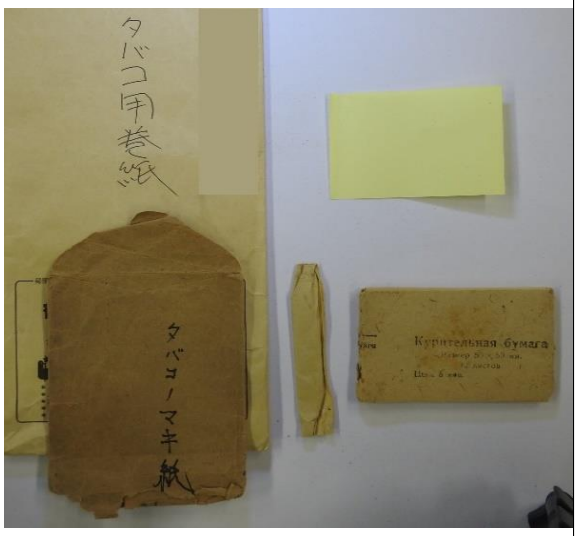
198		徽章	「愛国婦人会　賛助員章」 愛国婦人会賛助員の記念メダルで、ピンタイプのものです。東京玉寶堂製とあります。メダルは金色の花びらの形をしていて、メダルにデザインされた錨と星は、日本海軍と陸軍を象徴しています.
199		徽章	「農業調査員の徽章」 日本における全数的な農業調査は、昭和4年（1929年）に初めて実施されました。その時に調査員が胸にこのバッジをつけました。これは昭和14年に実施されたときのものです。 徽章には、昭和14年臨時国勢調査と記してあります。
200	 	徽章	「大日本武徳会　特別会員徽章」 左上の徽章は、戦前の日本において、武道の振興、教育、顕彰を目的として活動していた財団法人の特別会員徽章です。会は1895年（明治28年）4月17日、京都に公的組織として結成されました。 徽章には弓と矢などがデザインされています。 「陸軍機関銃射撃徽章」 下の徽章は陸軍機関銃射撃徽章と思われます。これは射撃成績の優秀者に与えられたものです。

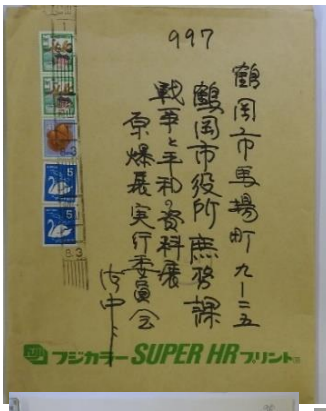
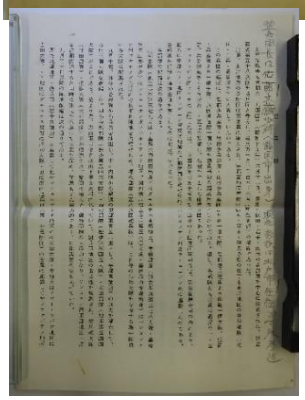
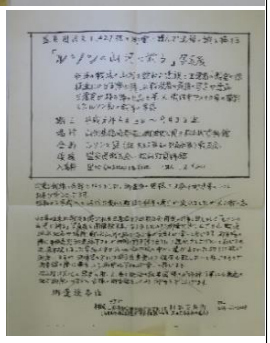
201		記章	「昭和大禮記念章」 昭和大禮記念章とは、昭和天皇の即位を記念して、1928年（昭和3年）に執り行われた昭和天皇即位の大礼や大嘗祭などの式典に参列したり、要務に携わったりした人に授与されました。記念章の裏面に、「大禮記念章　昭和3年11月」とあります。
202		徽章	「功労章　山形県」 旧字であることから、戦前の大日本消防協会が発行した徽章のようですが、正確なところはわかりません。
203		徽章	「国勢調査員徽章」 国から授与された国勢調査員の徽章です。国勢調査員が徽章を左胸に付けて調査活動を行いました。これは、昭和５年のものです。

204		社員章	「日本赤十字社社員章」 昭和21年に発行されたものです。 日本赤十字社は、戦後、中国大陸・シベリア抑留者の帰還問題など、国交のない国との交渉、救援活動につき、政府に代わって大きな役割を果たしました。
205		社員章	「日本赤十字社社員章」 昭和21年に発行されたものです。
206		社員章	「日本赤十字社特別社員章」 社費納入で一定の要件を満たした方に、特別社員として贈られた記念品。 昭和21年に発行されたものです。

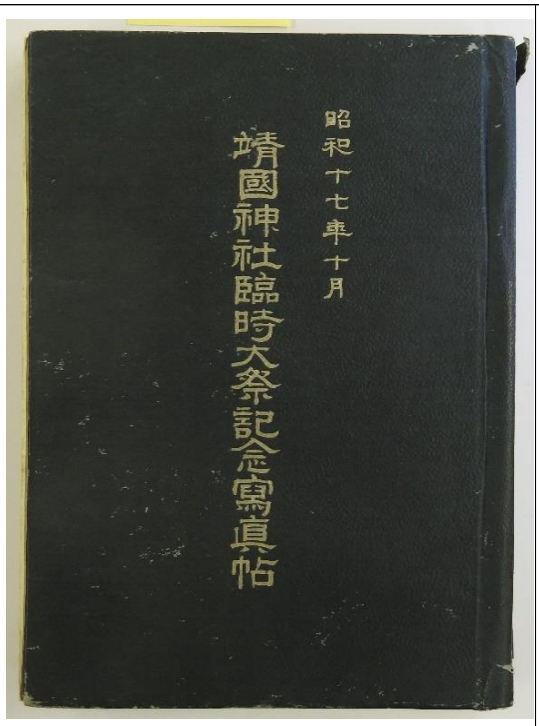
207		徽章	「農業調査員の徽章」 農業調査の際は、調査員が胸にこのバッジをつけました。箱の表には御親授記(紀?)念章と記されています。
208		木箱	「名誉会員章の木箱」 文字に軍乃会とありますが、それ以外の部分が読み取れません。
209		徽章	「社会教育委員章の箱」 ※左は農業調査員の徽章

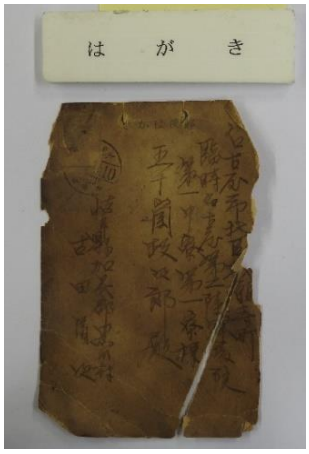
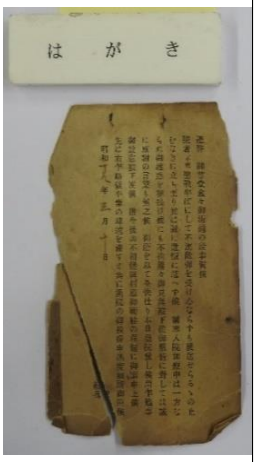
210		徽章と木箱	「荘内楠公会のバッジ」 「山形県消防学校之章の箱」 昭和15年に、「皇紀二千六百年荘内楠公会記念誌」が刊行されています。
211		木箱	「山形県消防学校之章の箱」
212		ペンダント	「ペンダントヘッド」 弓の文字が書かれています。 裏面に宮城県神職会 神職養成所とあります。

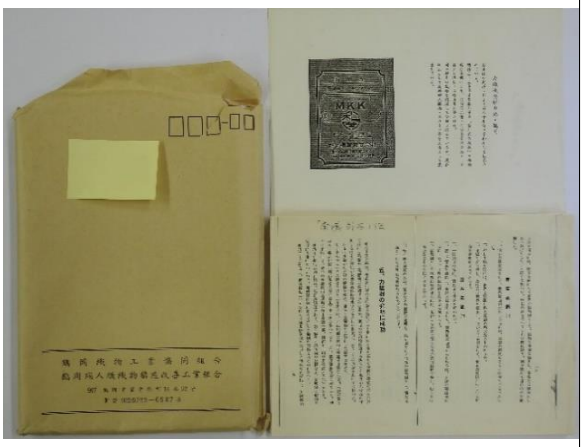
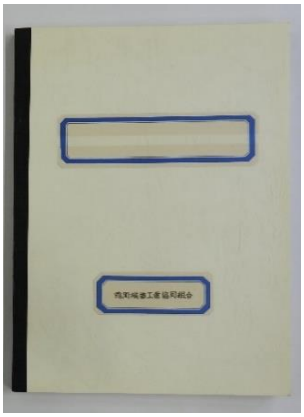
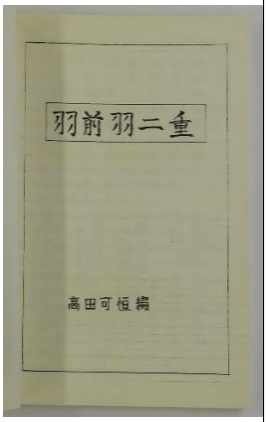
213	 	ハガキつづり	「ハガキつづり」 五十嵐政次郎さん宛に届いた、数多くのハガキが綴じられています。 左のハガキは、「満州の部隊から満州旅順の別の部隊に送られた軍事郵便」で検閲を受けています。 右のハガキは、「静岡から名古屋の第二陸軍病院に送られた普通郵便」です。普通郵便のため、郵便代は二銭とあります。 ハガキは、満州の戦友からや、入院した病院の仲間から、故郷の知人・親戚・友人からのものと様々で、絵ハガキもあります。中には学校や保育園から届いたものもあります。 また「スパイ駆逐は総動員」といった標語の書かれたハガキもありました。
214		煙草用巻紙	「煙草用巻紙」 つつみに、ロシア語(キリル文字)で喫煙紙とあります。シベリア抑留中に使用したもののようです。 中央は、煙草の葉を巻紙で包んで巻いたものです。
215		裁縫道具	「裁縫道具(糸巻き)」 シベリア抑留中に使用したものと思われます。

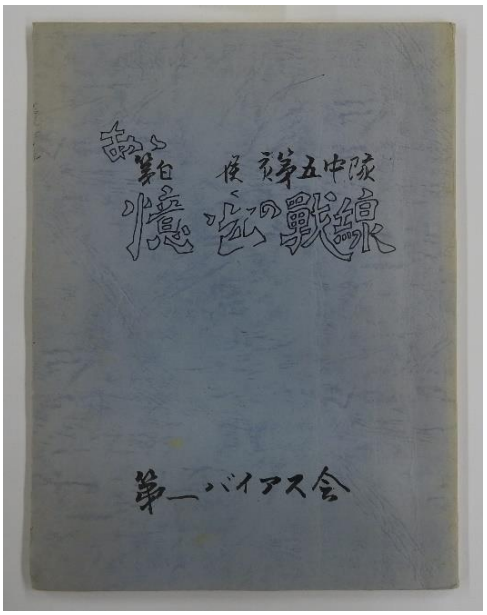
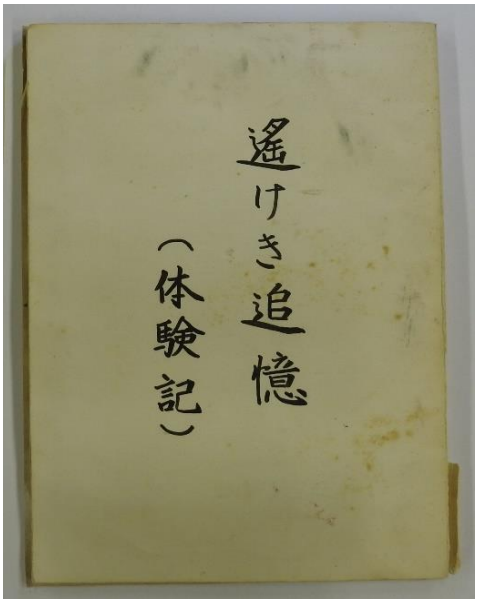
216		爪と髪	「形見の爪と髪」 吉住武太郎さんが、出征の際に、形見に残していったものです。 当時は、出征する人の多くが、爪や髪を形見として残し、戦死しても遺体や遺骨は帰らない覚悟で出て行ったそうです。 爪と髪は、裏に鶴岡市青年団第二分団第十班と判の押された封筒に入れられていました。 当時の「大日本青年団」は、昭和期の全国青年団組織で、1924年発足した大日本連合青年団が改称（'34）したもの。戦争目的に青年を動員するための統制団体と化し，'41年大日本青少年団に統合され，敗戦によって解散しました。
217	  	写真展関係文書	『「ルソンの山河に祈る」写真展の関係文書』 平成元年6月から9月にかけて松山町資料館(当時)で開催された写真展の関係文書。 太平洋戦争末期の昭和19年7月、フィリピンのルソン島では、米軍との間で激しい戦いが行われました。米軍上陸に備えて派遣された日本軍一万三千人余りのうち、生存者は千七百人余りとされています。 写真展の紹介に、「往時の戦場の山河を訪ねた遺族と生還者の慰霊の旅」「戦没者の写真や遺品、生還者が持ち帰った品々、戦闘中の写真等」と記されています。 企画は「ルソンの盟戦友会」です。

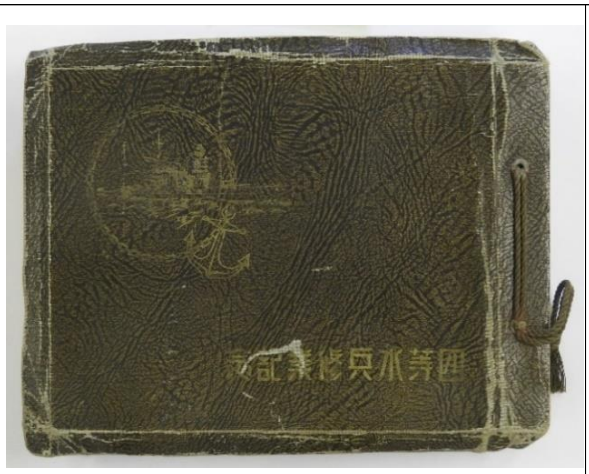
218			写真には、140と同じ海軍砲術学校校門の写真や、海軍砲術学校校歌の入ったものがあります。 資料として、派遣された兵団の戦闘の記録や地図なども含まれています。
219		勲記	「紀元二千六百年祝典記念章之証」 祝典の記念章を授与する証書。昭和15年11月10日付。この日から紀元2600年祝賀行事が開催されました。 (戦前日本では、神武天皇即位の年を紀元前660年と定めて、その年を皇紀元年と呼びました。)

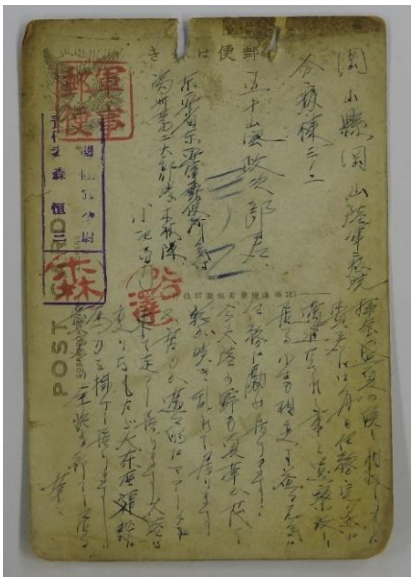
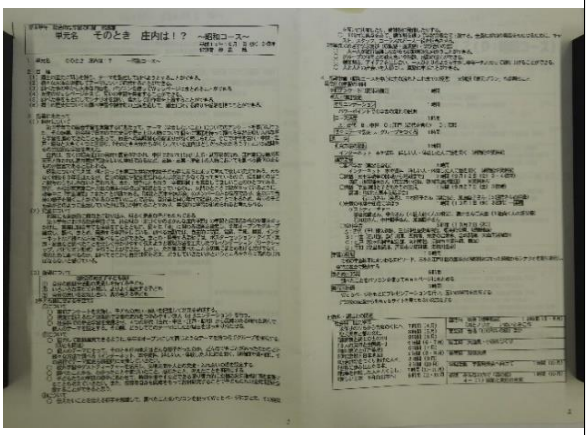
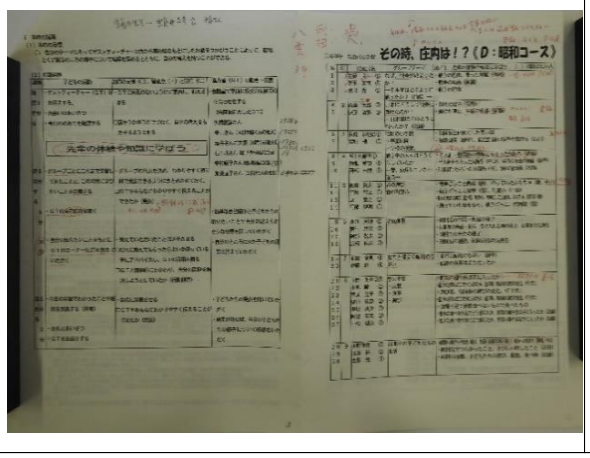
220		写真帖	「昭和17年10月　靖国神社臨時大祭記念写真帖」 詳細な写真から、靖国神社の臨時招魂祭の様子を見ることができます。
221		新聞記事と日記	「御橋義諦さんの原爆体験についての新聞記事」 広島市に近い、江田島の海軍兵学校で体験した原爆について書いています。台帳２６の「原爆被曝防護用白頭巾」のことや、原爆に対する考えなども書かれています。 1995年(平成7年)8月15日発行、荘内日報 「御橋義諦さんの海軍兵学校での日記」 昭和20年8月の日記です。御橋さんは原爆を目撃していますが、8月6日の日記には、そのことは書かれていません。

222		肩章	「肩章」 制服などの肩につけて、官職・階級などを示したものです。
223	 	ハガキ	「陸軍第二病院に入院中の五十嵐政次郎さんに届いたハガキ」 戦争で負傷した方が全快したので、お世話になった方に届けた礼状です。 日付は、昭和19年3月10日です。
224		玩具	「皇軍慰問　戦捷たこ」 ミニチュアの凧です。凧に描かれた絵は水兵服の女の子、凧の箱には兵隊の絵が描かれています。 強まる軍事色の中で、戦車や軍艦などのおもちゃが増え、めんこにも軍人や兵隊の絵が登場します。しかし、こうしたおもちゃも太平洋戦争が始まる頃には、手に入りにくくなりました。 遊びも、男の子の人気は「戦争ごっこ」でした。

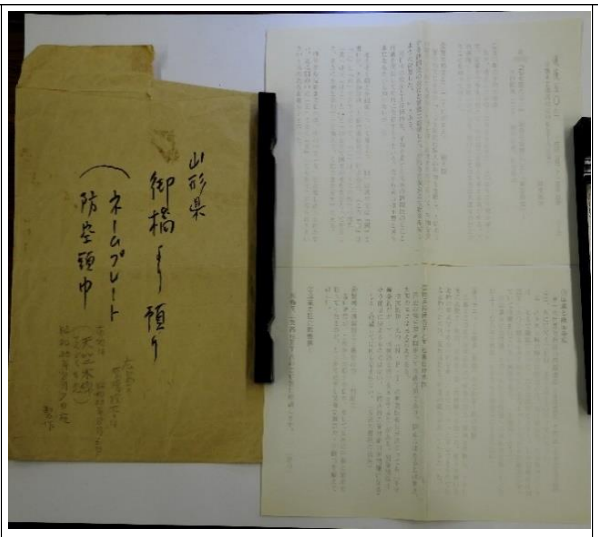
225	 	煙草の包み紙	「煙草の包み紙のコレクション」 個人の煙草の包み紙のコレクションです。 昭和15年に、戦時下の横文字追放で、「ゴールデンバット」から銘柄変更した「金鵄」(きんし)や、「チェリー」が変更した「桜」などの包み紙が含まれています。 横文字追放とは、敵国の言葉(敵性語)、音楽を禁止する戦時中の文化統制政策です。1940年(昭和15)頃から始まり、英語やアメリカやイギリスの音楽などを排除しようとしました。レコードは音盤、食べ物のフライは洋天などと言いかえました。 コレクションには、満州や香港、台湾、朝鮮などで作られた煙草や、戦地で兵隊に無料で配られた軍用煙草なども含まれています。
226	  	冊子	「羽前羽二重　鶴岡織物工業組合の記録」 東栄村の高田可恒さんが編著となる、鶴岡市特産の高級絹織物、「羽前羽二重」の歴史。1910年(明治43年)刊行。 他に齋藤外市さんを紹介する、山形県版「みんなの道徳」や「発明王齋藤外市」の一部コピーも添付されています。 鶴岡織物工業協同組合の「鶴岡織物の歩み」(昭和61年2月)も資料として収められています。

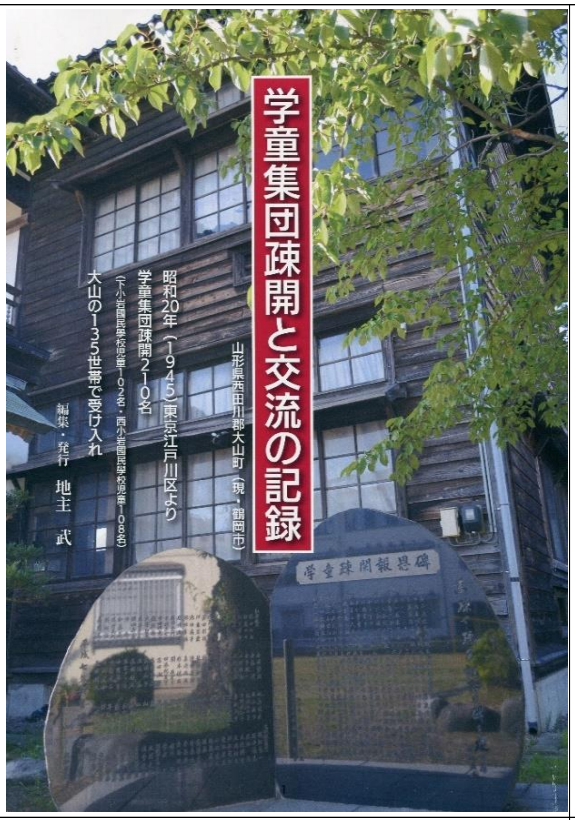
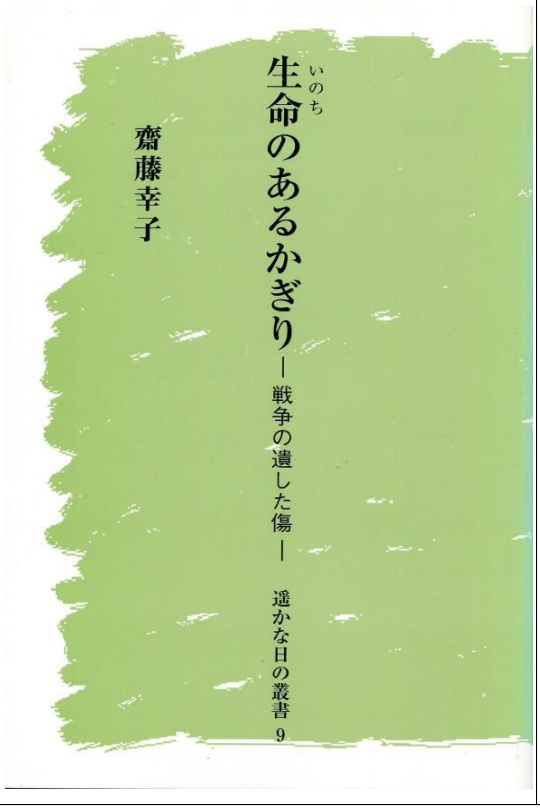
227		手記・写真集	「あゝ　第百七十連隊第五中隊憶い出の戦線」 日中戦争と米軍との戦争(ウエーキ島)の両方に従軍した部隊の記録です。隊員の手記と、戦地や遺骨収集の写真が数多く収められています。 第五バイアス会(五が消えています)とありますが、会の名は、昭和13年、日中戦争で部隊が上陸した広東省のバイアス湾(現在名大亜湾だやわん)に由来するようです。
228		風呂敷	「第11回大鳥島戦没者慰霊祭を記念して作られた風呂敷」 昭和50年11月16日、大鳥親交会 ウエーキ島は、太平洋戦争開戦当初の昭和16年12月にアメリカから日本軍が占領。大鳥島はそのとき日本がつけた名称です。その後、アメリカ軍の爆撃と飢餓のために、多くの犠牲者を出しました。この風呂敷には当時の陣地が書かれています。 現在はウェーク島と呼ばれます。
229		体験記	「遥けき追憶(体験記)」 吉住勇著 シベリア抑留から帰還した著者の体験をまとめた記録です。

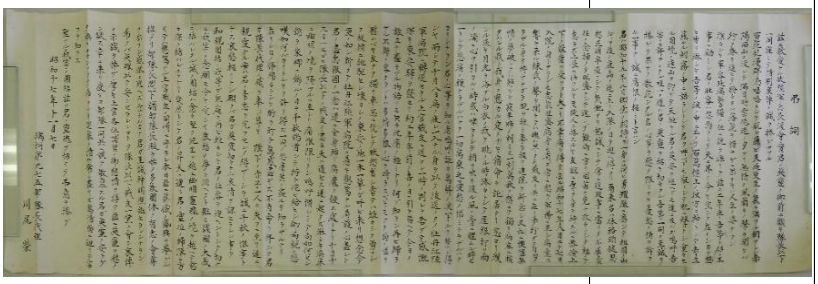
230		写真集	「四等水兵修業記念」 昭和10年6月横須賀海兵団に入団した兵士の訓練などの記録写真集。名簿と集合写真も収められています。
231		写真アルバム	「海軍砲術学校　高等科砲術練習生の写真アルバム」 表書きに、「中口経水上班」と書かれています。 台紙に写真は貼られていませんが、第12分隊の隊員名簿が添付されています。(校長　少将　入船直三郎以下、職員8名、教員15名、隊員は215名) 「海軍志願兵志願者の手びき」(1930年発行)によると、高等科砲術練習生の修業期間は約10か月とあります。
232		写真アルバム	「国境守備記念」 中国で従軍した兵士の個人アルバムです。

233	 	絵ハガキ(軍事郵便)	「満州の部隊から岡山陸軍病院の五十嵐政次郎さんに送られた軍事郵便」 夏になり草が茂り花が咲くなど、大陸の様子などが書かれています。 軍事郵便は軍によるチェックがあったため、軍隊内のことは軍事機密にあたるとして許されず、自身の健康や、肉親の安否を気遣った内容などが多く書かれています。 札幌郊外の写真の絵ハガキを使っています。
234	 	学習指導案	「小学六年生の総合的な学習の時間の学習指導案」 故薄衣勉教諭が、朝陽第三小学校に御橋義諦さんや児童の祖父母の方など、ゲストティーチャーを迎えて行った、昭和の歴史の授業の指導案です。 平成15年10月1日のものです。

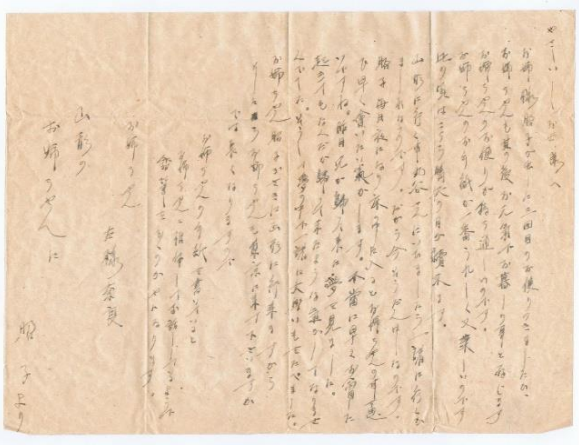
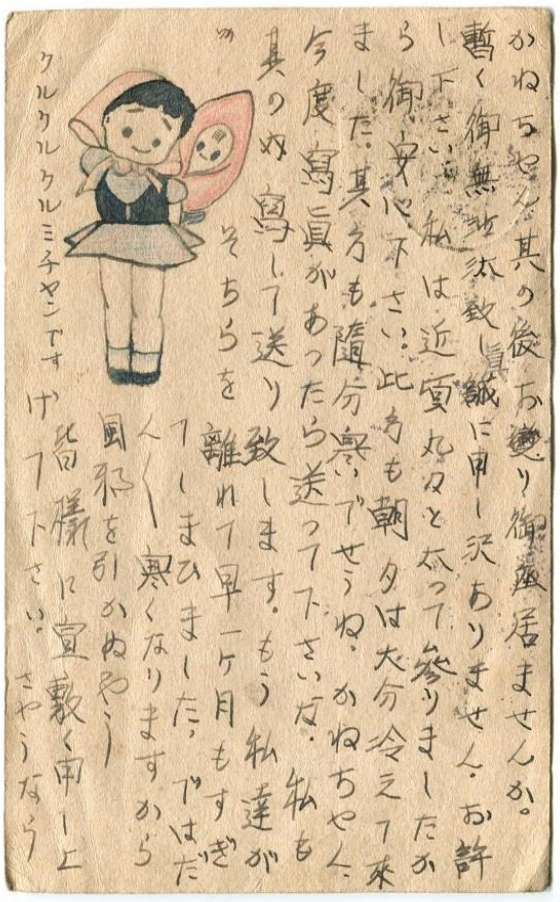
235		銃弾	「薬莢と銃弾」 通常の銃弾ではなく、迫撃砲弾か爆弾と見えるものがあります。
236		銃弾と薬莢	「機関銃の銃弾と薬莢」 薬莢とは、弾丸を打ち出す火薬を包み入れた金属製の筒です。
237		銃弾	「銃弾」

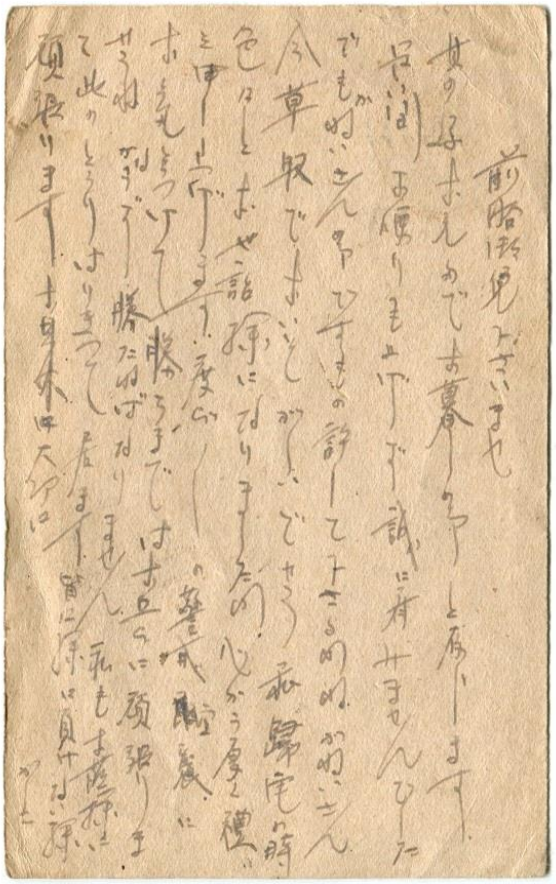
238		資料プリントと封筒	「鶴岡工業定時制での講演資料プリントと封筒」 鶴岡工業高校定時制ETA主催の講演会で御橋義諦さんが、「戦後五十年・・国連と原爆」という演題で行った講演の資料です。 封筒には、主催者が御橋さんから預かったものを記しています。ネームプレート(台帳122)と防空頭巾(台帳２６の昭和20年8月7日制作の原爆被曝防護用白頭巾のこと)。
239	 「原爆の形象」第一作 広島の広陵高校に寄贈されています。	図録	「三浦恒祺油絵展の図録」 広島での被爆体験をもとに、連作「原爆の形象」を描き続けている画家、三浦恒祺さんの油絵展の図録です。 1961年(昭和36)の「原爆の形象」第一作を収めています。 1979(昭和54)年10月10日～15日　致道博物館 広島市の「おりづるタワー」に三浦さんの絵画を原画にした壁画、「光に向かって這（は）っていけ」が描かれています。(2022年)

240		書籍	「学童集団疎開と交流の記録」 編集・発行　地主武 大山地区の学童疎開と、戦後の交流の記録です。地元で江戸川区の疎開に関わった方たちを中心に、資料を集めまとめたもので、戦時中の疎開児童の姿や受け入れた地域の人たちの思いが伝わってきます。 大山地区は全国でも2か所だけの「家庭分宿方式」(ホームステイ)などで、234名の疎開児童を受け入れました。 2022(令和4)年8月15日発行
241		書籍	「生命(いのち)のあるかぎり-戦争の遺した傷-」 齋藤幸子著 満州開拓団員として東安省(現牡丹江省)密山県永安屯開拓団山形村に入植した両親のもとで、昭和14年に現地で生を受けた齋藤幸子さんが、敗戦時に体験した避難行と戦後の生活を綴った著作です。 戦争の体験者として、平和の尊さを強く訴えています。 2012年(平成24)9月29日発行

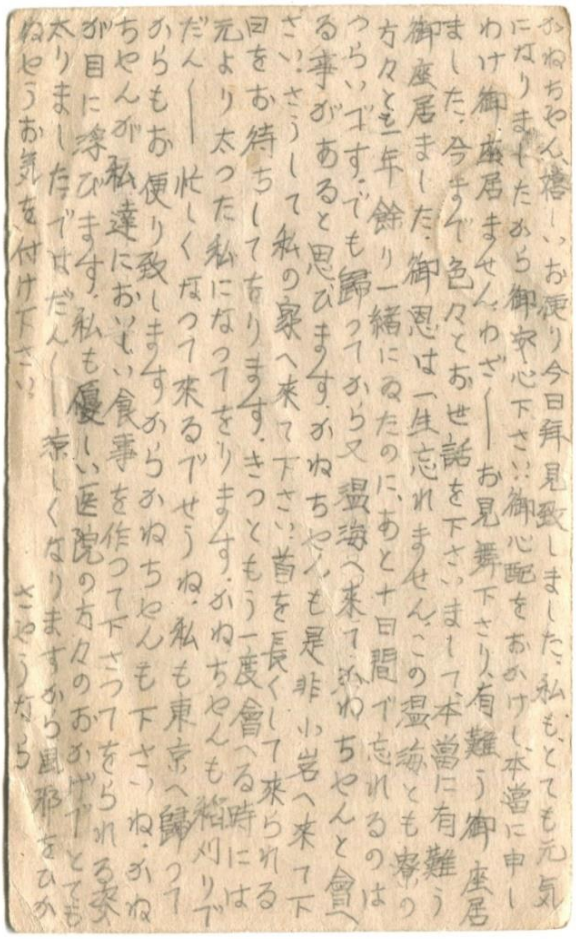
242	 	弔詞	「所属部隊から戦病死者に贈られた弔詞」 戦地で病に倒れ、昭和17年10月13日、無念の最期を遂げた渡曾實さんの闘病の経過を記し、深い弔意を表しています。所属部隊の満州第975部隊長代理、川尻榮さんの記名があります。 日付は昭和17年11月7日です。
243		勲記	「勲八等白色桐葉章　勲記」 勲八等白色桐葉章は国家や公共に対して優れた働きをした人に対して贈られたもので、当時軍人全般、軍務経験がある人に広く授与されました。 昭和39年8月29日の日付があります。

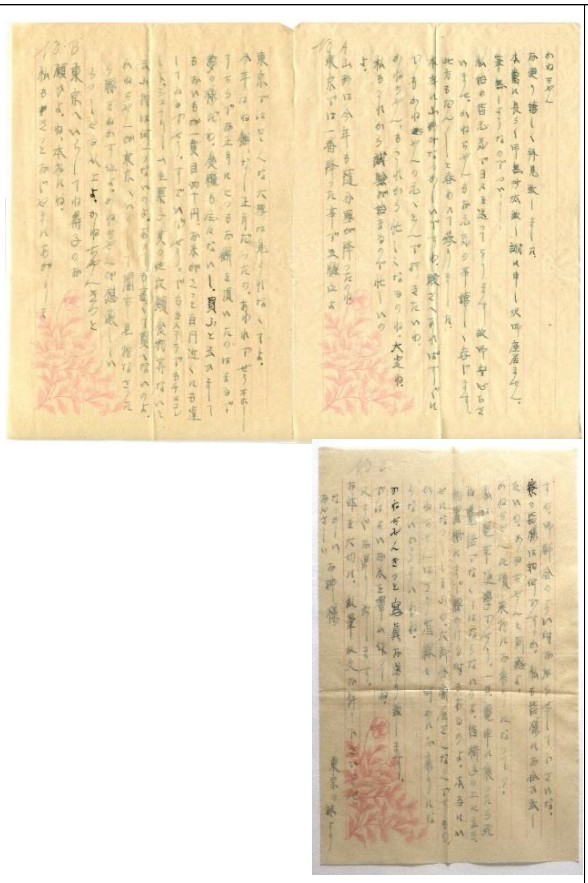
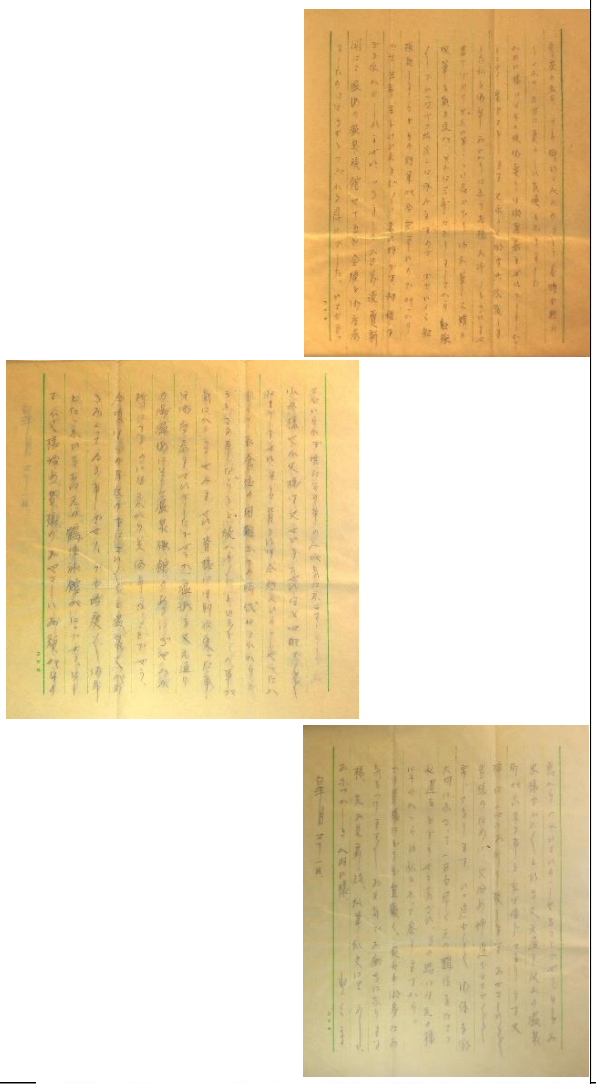
244		葬儀に掲げられた幟(のぼり)	「戦死者の葬儀に掲げられた幟」 陸軍兵長渡會實さんの葬儀に掲げられたものです。
245	 盃の底面	記念の盃	「庄内郷開拓団送出記念の盃」 満州事変の後、昭和7年に日本によって作られた満洲国には、農村の過剰人口対策と対ソ軍備強化などを目的に、約27万人の「満州開拓団員」が送られました。山形県は、全国で二番目に多い17000人余を送り出しました。(満蒙開拓青少年義勇軍を含む) この盃は、昭和13年の三股流庄内郷開拓団に始まった、満州に第二の庄内郷の建設を目指す「分郷移民」の送出を記念して作られたものです。日本国と満州国の国旗が配され、王道楽土、満州国庄内郷の文字があります。分郷移民はこの後馬太屯、大和、楊栄、王福岡開拓団と続き、敗戦時に多くの犠牲者を出しました。 盃は市民の方が保管しています。

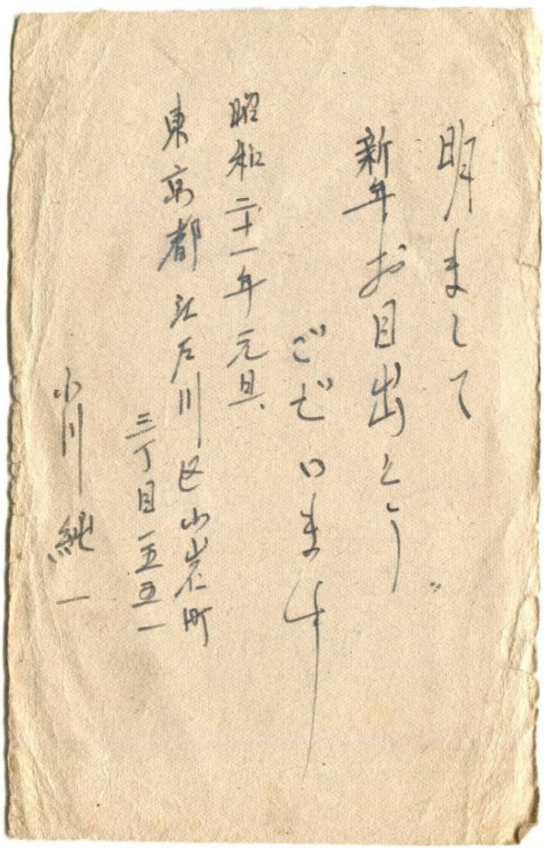
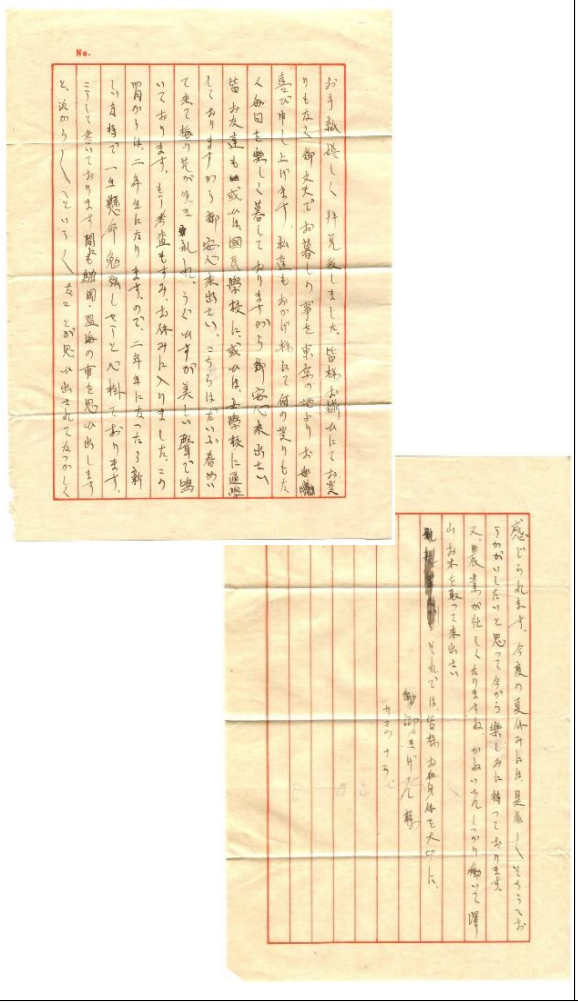
246		手紙	「学童疎開児童からの手紙」 終戦後の昭和20年10月17日に、江戸川区の小学生、隈井昭子さんから渡前の小野寺かね井さんに送られた手紙です。昭子さんは、温海温泉の旅館に学童集団疎開をした江戸川区の児童の一人です。 かね井さんを「お姉さん」と呼び、再会を強く願う文面から、寮母として疎開児童の世話をしたかね井さん(当時20歳くらい)が、どれほど慕われていたかがわかります。
247		はがき	「学童疎開児童からのはがき」 終戦後の昭和20年12月1日に、江戸川区の小学生、菱沼得子さんから渡前の小野寺かね井さんに送られた手紙です。得子さんも、温海温泉に学童集団疎開をした江戸川区の児童の一人です。 かね井さんを「かねちゃん」と呼んで、懐かしんでいます。 はがきに描かれたかわいらしいイラストに、終戦を迎えた子どもたちの気持ちが表れているようです。 温海温泉には、昭和19年8月から江戸川区の約1400人の児童が集団疎開をしました。

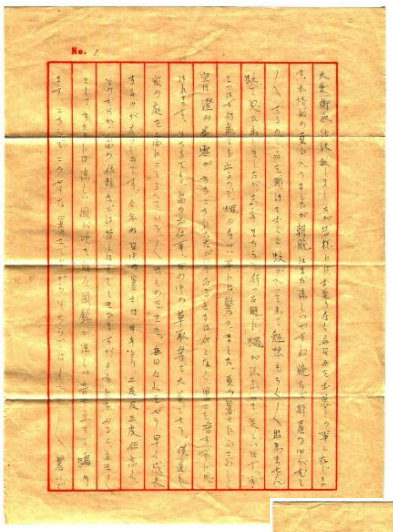
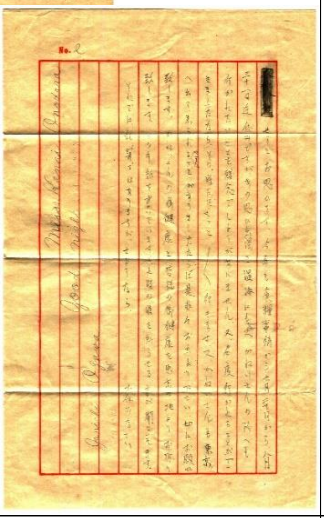
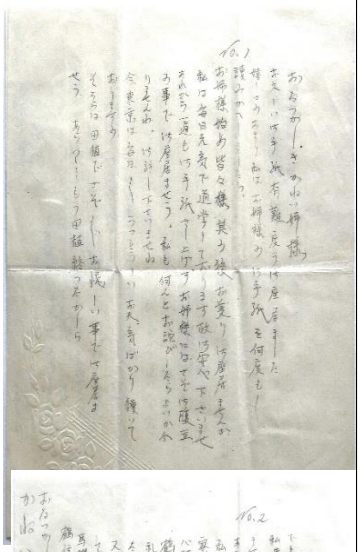
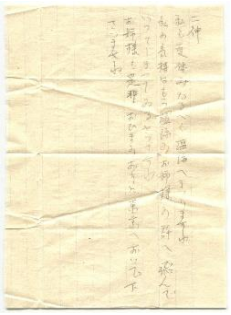
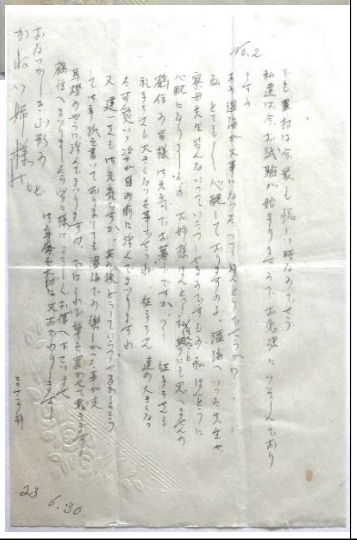
248		戦時中のはがき	「戦時中に、東京の親戚から届いたはがき」 戦時中に、小野寺かね井さんのもとに、東京都荒川区のおばさんから届いた手紙です。 「・・・たびたびの警戒空襲に気をつけて勝つまではお互いに頑張りましょう・・・」の文面から、戦時中の人々の生活や気持ちが伝わります。 7月20日の日付があり、「たびたびの空襲」という言葉から昭和20年のものと思われます。
249		勲記	「支那事変従軍記章の証」 支那事変(日中戦争)に従軍したことを顕彰するため、当時の政府から記章とともに贈られた記章の証(證)。 江部仁輔さんに授与されたものです。

250		勲記	「勲八等白色桐葉章　勲記」 勲八等白色桐葉章は国家や公共に対して優れた働きをした人に贈られたもので、軍人全般、軍務経験がある人に広く授与されました。 江部仁輔さんに授与されたもので、249の支那事変従軍記章と同じ昭和15年4月29日の日付です。
251		勲記	「功七級金鵄勲章　勲記」 武功抜群の軍人・軍属に与えられた勲章。1890(明治23)年に制定。1947(昭和22)年に廃止。年金または一時金の支給を伴いました。 第二次世界大戦終了までに約94万人が受章しました。 江部仁輔さんが戦死した、昭和15年6月12日の日付です。

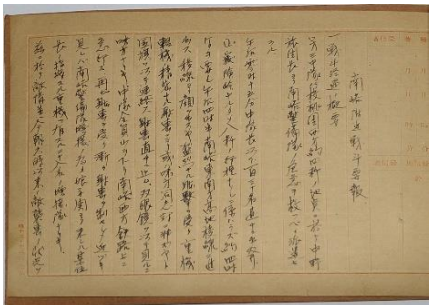
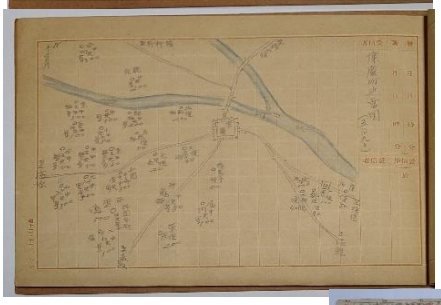
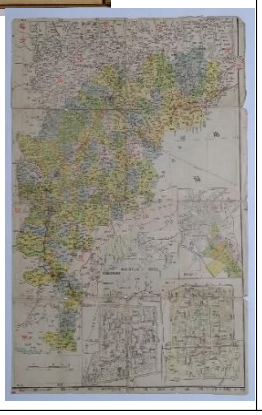
252		はがき	「学童疎開児童からのはがき」 昭和20年10月23日に、疎開児童の菱沼得子さんから渡前の小野寺かね井さんに送られたはがきです。 終戦後、帰京を前に疎開先で入院した得子さんを見舞った、寮母のかね井さんへの感謝がつづられています。 親身になって子どもたちの世話をする寮母さんの姿がうかがえます。
253		年賀状	「学童疎開児童からの年賀状」 江戸川区の元疎開児童の菱沼得子さんから渡前の小野寺かね井さんに送られた年賀状です。 かわいいイラストが添えられています。 昭和21年正月のものと思われます。

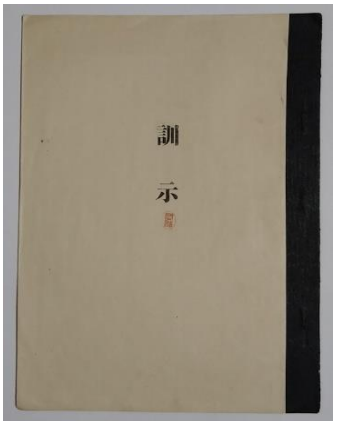
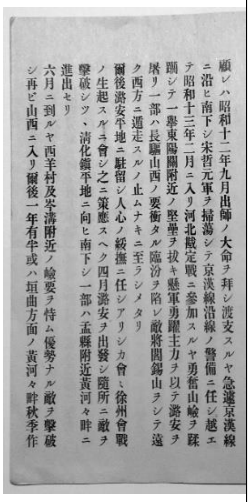
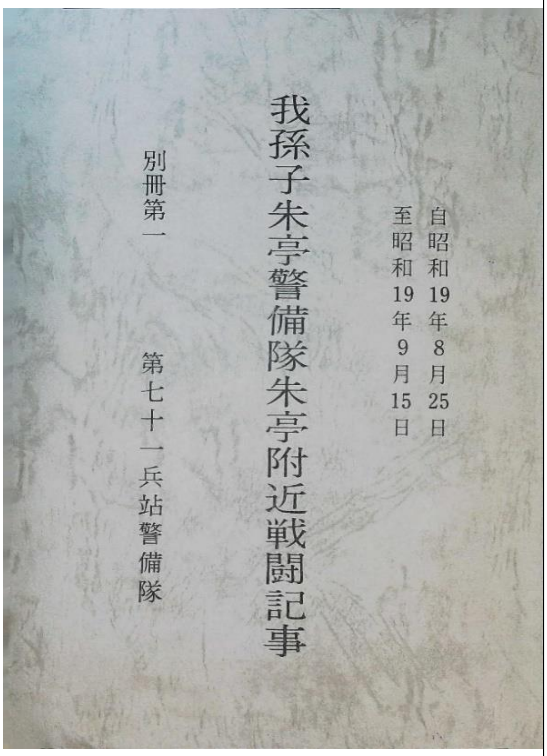
254		手紙	「学童疎開児童からの手紙」 終戦後、江戸川区に帰った元疎開児童の菱沼得子さんが、渡前の小野寺かね井さんに送った手紙です。 餅のない正月を迎えたことなど、終戦後の東京での厳しい生活の様子を伝えています。 日付は3月7日です。
255		手紙	「学童疎開児童からの手紙」 江戸川区の元疎開児童、菱沼得子さんが、渡前の小野寺かね井さんに送った手紙です。 新聞で温海温泉に大きな被害を出した昭和26年4月24日の温海大火のことを知り、お世話になった人たちのことを心配しています。 5月21日の日付があり、昭和26年に出されものと思われます

256		年賀状	「学童疎開児童からの年賀状」 江戸川区の元疎開児童、小川純一さんが、昭和21年の元旦に渡前の小野寺進さんとかね井さんに送った年賀状です。 かね井さんが、寮母として温海温泉の旅館に集団疎開した小川さんたちを世話しました。
257		手紙	「学童疎開児童からの手紙」 江戸川区の元疎開児童、小川純一さんが、渡前の小野寺かね井さんに送った手紙です。 夏休みには、かね井さんを訪問したいと書いています。 昭和22年3月19日の日付です。

258	 	手紙	「学童疎開児童からの手紙」 江戸川区の元疎開児童、小川純一さんが、昭和22年7月25日に渡前の小野寺かね井さんに送った手紙です。 前年にかね井さんを訪ねたときのことを書いていて、食糧事情から今年は夏休みに温海やかね井さんのところに行かれないことを残念がっています。 同封の純一さんの写真は、昭和21年11月に帰京したときに撮ったものです。
259	  	手紙	「学童疎開児童からの手紙」 江戸川区の元疎開児童、星雅子さんが、渡前の小野寺かね井さんに送った手紙です。 東京での生活の様子を伝えていて、夏休みになるべく温海へ行くと書いています。 昭和23年7月1日に投函されたものです。

260	**紙製の収納ケース** 	防毒マスク	「一七年式防空用防毒面(甲２号)」 1937(昭和12)年に、空襲に備えて防空法が公布されました。防空法では、焼夷弾や爆弾による攻撃のほか、毒ガスを用いた攻撃への対策も重視されていたため、防毒マスクの普及が図られました。 防空演習などで使用されましたが、実際の空襲で毒ガスによる攻撃がされることはありませんでした。 昭和18年に製造されたものです。
261	 	本絹シャツ・価格査定証紙	「本絹シャツ」 「繊維品価格査定証紙」 第二次世界大戦が始まると、物価上昇を抑えるため、多くの物資の価格を凍結する「価格等統制令」が出されました。1941(昭和16)年には、国が個々の商品に最高販売価格(公定価格)を決め、その価格以上で物品を販売することを禁じました。 シャツの襟に、価格査定証書がついていて、最高販売価格、税別7円84銭とあります。当時の査定証紙がそのままついている、大変貴重なものと思われます。 当時、戦時下の物資不足に対応するために米や野菜、衣類なども国が管理する配給制になっており、配給切符と引き換えに品物を受け取りました。

262	 	従軍記念盃	「従軍記念(紀念)盃」 盃に、戦役名などの記載がありませんが、従軍を記念して作られたものと思われます。 兵隊盃・軍盃とも総称されます。
263	  	ノート・地図	「日中戦争の戦闘の記録」 昭和12年11月、日中戦争に従軍した岡部次郎さんが残した、部隊の作戦と日々の戦闘の状況を手描きの地図をつけて記録したものです。 罫紙の日付から12月以降に記録として書き残されたものと思われます。 当時の河北省の分県詳図も添付されています。

264	  顧レハ昭和十二年九月出師ノ大命ヲ拜シ渡支スルヤ急遽京漢線 ニ沿ヒ南下シ宋哲元軍ヲ掃蕩シテ京漢線沿線ノ警備ニ任シ越エ テ昭和十三年二月ニ入リ河北戡定戰ニ參加スルヤ勇奮山嶮ヲ蹂 躙シテ一擧東陽關附近ノ堅壘ヲ拔キ懸軍勇躍主力ヲ以テ潞安ヲ 屠リ一部ハ長驅山西ノ要衝タル臨汾ヲ陷レ敵將閻錫山ヲシテ遠 ク西方ニ遁走スルノ止ムナキニ至ラシメタリ 爾後潞安平地ニ駐留シ人心ノ綏撫ニ任シアリシカ會〻徐州會戰 ノ生起スルヲ會シ之ニ策應スヘク四月潞安ヲ出發シ隨所ニ敵ヲ 擊破シツヽ清化鎭平地ニ向ヒ南下シ一部ハ孟縣附近黃河々畔ニ 進出セリ 六月ニ到ルヤ西羊村及岑溝附近ノ嶮要ヲ恃ム優勢ナル敵ヲ擊破 シ再ビ山西ニ入リ爾後一年有半或ハ垣曲方面ノ黃河々畔秋季作	冊子	「訓示」 昭和15年2月1日、岡部次郎さんが除隊したときに、谷口部隊長から贈られた訓示です。
265		冊子	「我孫子朱亭警備隊朱亭附近戦闘記事」 昭和19年8月25日から9月15日までの、第七十一兵站警備隊の中国大陸における戦闘の記録です。 激しい戦いの中で多くの兵士が犠牲となったことが記録されています。

266		ノート	「第七十一兵站警備隊第二中隊の兵員の記録」 兵站(へいたん)とは、軍隊の戦闘を支える補給や輸送、管理などの業務のことで、兵站警備隊はその業務を担う部隊です。 ノートは中国大陸で戦った第七十一兵站警備隊第二中隊の人事・功績の記録を担当した岡部次郎さんが、昭和19年5月から終戦後帰国する昭和21年5月までの間、兵士の傷病や死亡などを克明に記録したものです。

このリストに掲載しているもののほか、戦争に関わる書籍やDVDなどもあります。